



平成13年度
年報 VOL.14

米沢市上杉博物館

刊行にあたって

市制施行100周年にあたって平成元年に上杉家から洛中洛外図屏風（平成7年国宝指定）をはじめ上杉家文書（平成13年国宝指定）などの宝物の寄贈を受けたことを契機に新博物館構想がスタートしました。

米沢市上杉博物館は、置賜地域の歴史・文化の中心であり米沢城址など城下町の歴史の薫りと風情を漂わせる松が岬公園周辺地区（歴史と文化のシンボルゾーン）に県立の置賜文化ホールと一体的な施設として建設されました。

文化ホールと博物館が相互の特色を活かしながら連携して地域文化の情報を発信しようと上杉氏入部400年・上杉鷹山公生誕250年という節目にあたる平成13年9月29日に開館いたしました。

平成13年度は、「上杉家の至宝展」をはじめ米沢ゆかりの上杉に関連した展示や郷土出身者の作品展示など6つの特別・企画展を開催し、入館者が6か月で11万1千人にのぼるなど、順調なすべりだしをする事ができました。

ここに、新博物館の年報第1号とも言うべき平成13年度の年報を発刊するにあたり、これまで新博物館の建設並びに開館にご協力を賜りました関係各位に深く感謝を申し上げますとともに、今後も博物館の基本理念・基本的性格を踏まえ、多くの方々に親しまれ愛される博物館を目指してまいりますので、今後ともなお一層のご指導とご協力をお願い申し上げます。

平成15年3月

米沢市上杉博物館

目 次

米沢市上杉博物館の沿革	3
基本構想と基本計画	5
建設事業	9
施設の概要	12
事業の概要	
1. 新博物館準備事業	
(1) 調 査	13
(2) 展 示	15
(3) 保存管理	16
(4) 移転作業	16
2. 開館記念式典	17
3. 展 示	18
(1) 常設展	20
(2) 企画展	21
4. 教育普及	32
5. 調 査	40
6. 収集・保管	41
管理・運営	49
条 例	53
組 織	62
利用案内	64

米沢市上杉博物館の沿革

新博物館（米沢市上杉博物館）の開設準備から開館まで

市制施行100周年となる平成元年に、上杉家から洛中洛外図屏風（平成7年国宝指定）や上杉家文書（平成13年国宝指定）などの寄贈を受け、これを契機に新博物館建設構想の検討を重ねていくこととなった。平成2年には、将来の運営組織となる(財)米沢上杉文化振興財団の設立や博物館資料整備基金制度の設置を行い、平成7年には第7次米沢市総合計画により建設計画が動きはじめることとなった。こうした中、平成9年には松が岬公園に隣接する県立米沢工業高校が新築移転することになったため、その跡地（県有地）に新博物館を建設するべく県に対し、その要望を行った。松が岬公園周辺は、上杉神社や上杉記念館などの歴史、文化施設が集中しており、城下町の薫りと風情を漂わせる置賜地域の歴史文化のシンボルゾーンであり県内有数の観光名所でもある。また、米沢市の景観形成重点地区としても指定されている。山形県は、この地区の重要性を踏まえ、置賜地域の文化・地域振興を先導していく一体的な地区として捉え、歴史性や周辺景観との調和を図りながら、ホールを中心とした県立施設（文化活動交流施設）を建設することを提示した。このような動きを経て、県と市の合意によって、県内初の県立と市立の合築施設を建設することが決定された。建物本体工事（外構・緑化工事含む）については、県と市が委託協定を締結し、プロポーザル方式により県が一括発注し、平成11年10月着工、平成13年7月完成した。一方、博物館の展示工事については、建物同様にプロポーザル方式により市が発注し、平成11年6月着工、平成13年8月完成した。管理については、県立施設も含めて市が一括管理し、博物館事業については(財)米沢上杉文化振興財団へ委託している。平成13年9月29日（土）の開館初日には1,870人の入館者があり、同日から開催されたYOZANフェスティバル（9/29～10/21）との相乗効果もあり、同年10月中旬には5万人を突破し、10月21日には一日の入館者最高記録7,837人の入館者があり展示室内は人の波で混雑を極めた。

旧博物館（米沢市立上杉博物館）の開館まで

旧博物館（米沢市立上杉博物館）は、その前身として米沢郷土館・米沢市立郷土博物館・市立米沢博物館があった。これらは南置賜郡役所や市立図書館に併設されていたが、昭和42年、市民の教養の向上と学芸及び文化の発展を図るため、博物館施設として上杉神社敷地内に名称も新たに米沢市立上杉博物館として建設された。県内初の公立博物館として歩みをはじめ、現在の新博物館が開館するまでの30余年にわたり、地域博物館としての使命を果たした。

年 月	事 項
昭和5年10月	元南置賜郡役所に米沢郷土館設置
昭和13年4月	市制50周年記念として米沢市に移管され、市立図書館に併設
昭和27年9月	博物館相当施設として登録、市立米沢郷土館と称す
昭和30年9月	市立米沢図書館に移転
昭和37年7月	博物館法による設置条例制定、市立米沢博物館と改称
昭和41年11月	上杉神社敷地内に市立米沢博物館新館完成
昭和42年4月	博物館法による設置条例制定、米沢市立上杉博物館と改称
昭和42年6月	博物館施設として登録
平成11年5月	閉館（新博物館開設準備のため休館）

経 過

年 度	事 項
平成元年度	上杉家より「紙本金地著色洛中洛外図」「上杉家文書」等を米沢市が受贈 (財)米沢上杉文化振興財団の設立(H2.3.22設立許可) 博物館資料整備基金の設置
平成元～3年度	米沢市歴史民俗博物館構想懇談会
平成5～6年度	米沢市歴史民俗博物館構想専門委員会
平成7年度	第7次米沢市総合計画議決 置賜地方拠点都市地域基本計画の承認 置賜歴史民俗等文化施設整備基礎調査
平成8年度	「(仮称)米沢市歴史民俗博物館」建設基本構想策定委員会 (米沢市の新しい博物館を考える市民フォーラムの開催 H9.1) (「(仮称)米沢市歴史民俗博物館」建設 基本構想の策定 H9.2) 置賜文化創造エリア形成推進懇談会 (山形県「米沢工業高校跡地利活用基本方針」の策定)
平成9年度	新博物館基本計画策定懇談会 (米沢市新博物館基本計画の策定 H10.1) 置賜広域文化施設・新博物館建設準備委員会(山形県) (「県立置賜広域文化施設(仮称)及び米沢市立新博物館(仮称)総合基本計画」の策定) まちづくり特別対策事業について、自治省の採択を受ける 新博物館展示基本計画策定及び展示設計業者決定 (株)乃村工藝社:新博物館展示基本計画企画提案審査委員会(委員長:助役、委員5名) の審査プロポーザル方式により決定) 置賜広域文化施設及び新博物館新築工事基本設計及び実施設計業者決定 (株)関・空間設計:置賜広域文化施設及び新博物館(仮称)整備事業プロポーザル方式 設計者選定委員会(委員長:文化環境部長、委員6名)の審査プロポーザル方式により 決定)
平成10年度	教育委員会文化課内に新博物館建設準備担当を設置 米沢市新博物館資料収集基本方針策定委員会 (米沢市新博物館資料収集基本方針の策定) 埋蔵文化財発掘調査(敷地内) 県と市の関係者による「置賜広域施設・新博物館整備推進委員会」を設置
平成11年度	教育委員会に新文化施設開設準備課を設置 洛中洛外図屏風原本修復発注(H11.5～) 新博物館展示工事の発注(H11.6～) 山形県立置賜広域文化施設及び米沢市新博物館新築工事の発注(H11.10～) 洛中洛外図屏風複製発注(H11.12～)
平成12年度	洛中洛外図屏風複製完成 情報ライブラリー演出ソフト制作発注(H12.10～) 洛中洛外図屏風原本修復完了
平成13年度	愛称の公募(全国から1544通の応募:「伝国の杜」に決定) 山形県立置賜広域文化施設及び米沢市新博物館新築工事完成(H13.7) 新博物館展示工事完成(H13.8) 開館記念式典(H13.9.28) 開館(H13.9.29)

基本構想と基本計画

「(仮称) 米沢市歴史民俗博物館」建設基本構想 ― 抜粋 (平成9年2月)

基本理念

(1) 郷土愛の醸成

地域の再発見や素晴らしさの認識による郷土愛の醸成を図る。

(2) 広域交流施設

ア 米沢市を中心としながら置賜地域全体を見据えた施設とするとともに、開かれた施設とする。

イ 来館者に感動を与え、魅力ある施設とするとともに、地域資源としての活用も図り、地域間交流を促進する。

ウ 情報の収集・発信機能としての役割を果たす。

(3) 学術・文化等の振興

ア 歴史・文化に関する資料の収集、保存、伝承に努め、学術・文化・郷土研究の振興を図る。

イ 生涯学習の振興に資する施設とするとともに、特に博物館と学校教育との連携を図る。

基本的性格

米沢市を中心として、置賜地域の特性を最大限生かした人文系の登録博物館とし、文化財公開施設の基準を満たす施設とする。特に、未来に向けて活用できる博物館を目指すとともに、他館等のネットワーク化を図りながら、地域の歴史・文化情報の中核施設に位置付けるものとする。

博物館の主な性格は、次に掲げるものとする。

- (1) 地域の歴史・文化を明らかにするとともに、上杉氏関係の文化財、古文書等を調査研究し、その成果を発信する性格を有する。
- (2) 地域に特徴的な民俗事象等を理解できる性格を有する。
- (3) 地域関連の先人と地域ゆかりの作家の美術工芸品を紹介する性格を有する。

展示概要

米沢の歴史・文化、中でも江戸時代を中心としながら、米沢の風土、郷土関連の先人資料、美術工芸品等も有機的に組み合わせた展示を行う。展示のテーマについては、下記の点を配慮するものとする。

(1) 歴史に関すること

ア 歴史全般に関すること

地域における原始・古代から現代までの歴史の変遷の大筋が、概括的に学べるような展示を行う。

イ 米沢藩の歴史と上杉文化に関すること

現在まで受け継がれてきた、米沢藩の歴史と上杉文化についての理解とその精神を明らかにすることをテーマに据えた展示を行う。また、歴史・民俗・美術・文学等いくつかの分野にまたがり、学問のジャンルを越えた総合的な歴史研究の成果を生かした展示とする。

(2) 民俗に関すること

ア 特定の時代を背景とした庶民の暮らしを迫体験できるようなものとする。

イ 特に置賜地域の特性である草木塔、行屋等を盛り込んだものとする。

(3) 古文書に関すること

上杉家文書を中心に、各時代の政治、社会、文化等を理解するための展示を行う。

(4) 先人に関すること

置賜地域ゆかりで、置賜の精神風土形成に尽力、郷土の人材育成に貢献した人物や全国的な活躍

をした人物を中心とした展示を行う。

(5) 美術に関すること

置賜地域ゆかりの作家の作品を中心とした展示とする。

(6) 上記に分類できない所蔵品に関すること

今日まで収集してきた上記に分類できない所蔵品を展示する。

(7) 情報発信に関すること

置賜地域を中心に所在する史跡や歴史・文化施設を紹介する展示を行う。

設置概要

(1) 設置場所は、県立米沢工業高等学校移転後の跡地とする。

(2) 建設規模は、延べ床面積約4000㎡程度とする。

(3) 建物のイメージ

松が岬公園の景観に調和するとともに展示内容に沿った外観とし、低層の建物とする。

(4) 施設内容

災害に強い耐火耐震構造とし、雪や防犯、身体の不自由な人にも配慮した施設とする。

ア 資料の保管施設

(7) できるだけ広い保管スペースを確保する。

(f) 資料の性格にあった収蔵庫等を設置する。

(g) 荷物の搬送等の利便性に配慮する。

(h) 資料の整理、保存しやすい施設づくりに配慮する。

イ 展示施設

(7) 展示施設として、常設展示室及び企画展示室を設ける。

(f) 展示資料を適切に保存しながら展示できる施設とする。

(g) 展示室・展示ケースは、フレキシブルで機能的なものとし、比較的自由に展示替えて
きる機材等の設備を備える。

(h) 無駄のない動線となるようなレイアウトを検討する。

ウ 生涯学習・教育活動施設

(7) 市民の生涯学習、児童・生徒の学習活動に配慮した施設とする。

(f) 集会機能を持たせた施設とする。

エ 管理、その他施設

(7) 博物館資料等を適切に管守できるよう管理便益施設等を配置する。

(f) 特にミュージアムショップや休憩機能等を設ける。

「(仮称) 米沢市歴史民俗博物館」建設基本構想策定委員会委員名簿

(五十音順、敬称略)

平成9年2月現在

	氏 名	役 職 名		氏 名	役 職 名
委員長	横山 昭男	山形大学名誉教授	委 員	佐野 賢治	筑波大学助教授
委 員	青木 厚一	(財)米沢上杉文化振興財団理事長		神保 和史	山形県企画調整部地域計画課長
	石栗 正人	米沢市文化財保護委員会委員長		杉本 達治	山形県文化環境部文化振興課長
	大友久太郎	米沢商工会議所会頭		大乘寺 健	上杉神社宮司・稽照殿館長
	大峽 孟	上杉博物館協議会委員長		武田 正	山形女子短期大学教授
	沖田 良夫	(財)米沢上杉文化振興財団事務局長		湯浅 隆	国立歴史民俗博物館助教授
	加藤 稔	東北芸術工科大学教授		若林 繁	福島県立博物館学芸課長
	金山 耕三	山形県立博物館副館長兼学芸課長			

米沢市新博物館基本計画 ― 抜粋（平成10年1月）

1 基本的な考え方

方向性

米沢市及び置賜地域は、国宝「洛中洛外図屏風」や重要文化財「上杉家文書」など、全国、全世界に誇るべき文化財を有するとともに、幾多の有為な人材を輩出してきた。また、草木塔の建立に至る精神や行屋などに見られる特色ある民俗事象も伝えられてきた。

こうした地域の歴史や独自の営みの中から生まれてきた文化財、また歴史的資料を通して、郷土のすぐれた文化に触れるとともに、市民一人一人が日々の暮らしの中で地域の歴史や文化とのつながりを考えることのできる博物館の役割は一層重要性を増している。

特に、複雑化し多様化する現代社会にあっては、人間的なつながりや精神面の充足を図りながら、知識や趣味を媒介として一人一人が相互に高めあい、豊かなつながりを生み出していくコミュニケーションの場が求められている。

地域の持つ貴重な資料や独自の情報を保存・研究・展示することはもとより、これらの資料や情報を、市民にとって、また外来者を含め博物館を訪れる人々全てにとって豊かな交流を生み出すことのできる資源としてとらえ、以下のような展開を考える。

- (1) 市内外の人々が地域の特性を知り、その素晴らしさを再認識する。
- (2) 未来を担う人材を育成するために役立てる。
- (3) 米沢市及び置賜地域のイメージアップを図る。
- (4) 地域間交流の促進をはじめとした地域振興に活用する。

こうした考えに立ち、基本理念及び基本的性格を踏まえながら、次のような機能を持つ新博物館の具現化を図る。

1. 郷土愛の醸成

◇郷土を育み、新たな歴史の創造に寄与する機能

上杉氏関係の貴重な文化財、鷹山公の事績、南東北（みなみとうほく）の要地としての地域の歴史、この地に生きた人々の足跡などについての資料や情報を保存・研究・展示する新博物館を通して、地域を知り、共通の認識を深め、郷土への愛着と共感の輪を広げるよう努める。それとともに、常設展示を中心に、企画展示やイベントといった形で常に学習の動機づけが用意され、学習支援活動を展開できる博物館の相乗的な効果を活かし、地域の未来につながる活動の展開を目指す。

◇市民の自己実現を支援する機能

市民の豊かな感性や知的な創造力が、米沢・置賜地域の新しい世紀を拓く原動力となる。新博物館は、市民の積極的な社会との関わり、学びや生きがいの追及に応えられるよう、利用者主体のシステムを検討し、市民の主体的な参加・参画を受け入れる。また、日常的で身近な存在として、市民の生活を彩るゆとりや潤いにあふれた施設のあり方を考える。

2. 広域交流の実現

◇米沢の魅力に出会う感動あふれる文化観光施設としての機能

地域の歴史的・文化的資産の集積地に誕生する新博物館は、米沢を訪れる人々や観光客に、その魅力をアピールする文化観光施設としての役割も担う。地域の特徴的な歴史・文化が感じられる空間づくりや展示・イベント、周辺環境整備などにより、来館者それぞれが感動を味わえる施設づくりを目指す。

◇米沢、南東北、全国規模で情報の受発信が図られる情報機能

置賜、南東北までを視野に入れた豊かな研究成果を広く発信できる情報拠点としての整備を図る。コンピュータを介した情報通信手段の飛躍的な進展を考慮し、調査研究成果のデータベース化、関連機関・博物館等とのネットワーク化などを進め、広範な情報の受・発信を展開できる情報センターとしての活動を目指す。

3. 学術・文化の振興

◇地域の歴史・民俗及び上杉文化に関する誰もが参加できる開かれた研究機能

地域の全体像を解明するための歴史・民俗等に関する調査研究の充実とあわせ、全国レベルでの高い学術的価値を持つ上杉家文書等に関する研究を推進し、上杉文化に関する研究拠点としての機能をもたせ、市民、来館者、また全国の研究者など、誰にでも開かれた施設として、

研究活動への参加・協力を受入れる。

2 事業活動方針

(1) 資料収集事業

米沢市及び置賜地域の歴史・民俗・文化に関する資料や図書・情報を幅広く体系的に収集していくことを基本とする。

(2) 整理・保存事業

地域の文化財は貴重な歴史資産であるので、これを良好な状態で後世に伝えていくために、資料の適切な保存処理・修理の体制を整える。このため、保存施設については、長期的な展望にたち、十分な規模・設備を確保できるよう設計する。

(3) 調査研究事業

米沢及び置賜地域に関する歴史・民俗・文化はもとより、南東北に視野を広げた歴史・文化に関連する情報の発信拠点となり得るよう体制を整備し、調査研究事業を行う。

(4) 展示事業

調査研究の成果を踏まえ、米沢・置賜の歴史・民俗・文化を来館者に分かりやすく伝えることができるよう、常設展示、特別・企画展示等を行う。

来館者との出会いやふれあいの場として、地域の人々には誇りを、外来者・観光客には感動を与える魅力的な展示を目指す。

(5) 情報提供事業

博物館活動に関連する展示、学習交流、収蔵資料、研究など各種の情報を統一的、総合的に支援することができるコンピュータを活用した情報システムの構築を進め、体系的な地域情報の提供に努める。

(6) 学習交流事業

日常的な地域学習の場として、誰でも参加・交流できるさまざまなプログラムを用意し、知的な楽しみを提供する場として、人々に継続的な利用を促す事業を展開する。

(7) 広報・PR事業

来館意欲を喚起し、話題性を高めるなど、館と市民・利用者を結ぶコミュニケーションの核として事業を展開する。

(8) サービス事業

地域の文化活動の中心施設として、できるだけ多くの人に親しまれ利用されるために、明るく親しみやすい雰囲気醸成し、利用者主体の活動を展開する。

新博物館基本計画策定懇談会委員名簿

平成9年12月現在（五十音順、敬称略）

	氏 名	役 職 名
委 員 長	渡部 治雄	山形県立米沢女子短期大学 学長
委員長代理	青木 厚一	(財)米沢上杉文化振興財団理事長
委 員	遠藤平右衛門	前置賜文化創造エリア形成推進懇談会委員 ((社)米沢観光協会会長)
	大峽 孟	米沢市立上杉博物館協議会委員長
	小野 榮	前置賜文化創造エリア形成推進懇談会委員 (米沢市市史編さん専門員)
	亀岡 博	米沢文化懇話会長
	杉本 達治	山形県文化環境部文化振興課長
	鈴木 仁	(財)農村文化研究所理事長
	大乘寺 健	上杉神社宮司
	舟山まり子	前置賜文化創造エリア形成推進懇談会委員 (米沢市広報委員)
	前山 健二	(社)米沢青年会議所理事長
	松野 良寅	東北芸術工科大学名誉教授 (上杉鷹山公と郷土の先人を顕彰する会理事長)
	村野 隆男	東京国立博物館学芸部企画課普及室長
	湯浅 隆	国立歴史民俗博物館助教授
	吉田美智子	米沢市立南部小学校々長

建設事業

建設費

(単位：千円)

区分	項 目	H 9	H10	H11	H12	H13	合 計
建築	置賜広域文化施設設計委託	18,749					18,749
	地質調査委託	7,067					7,067
	総合基本計画策定等委託	10,311					10,311
	埋蔵文化財発掘調査委託		31,570				31,570
	建築実施設計委託		44,709				44,709
	本 体 工 事	建築工事		293,878	898,946	376,853	1,569,677
		電機設備工事			92,570	201,304	293,874
		空調設備工事			118,465	257,435	375,900
		衛生設備工事			34,828	75,633	110,461
	分	工事監理委託		3,898	9,521	4,053	17,472
		外構工事			7,170	108,664	115,834
		緑化工事			2,041	1,796	3,837
		屋外照明工事			289	4,736	5,025
		その他県委託費		4,145	10,475	7,729	22,349
	その他建築関連費			3,203	2,172	12,479	17,854
	小 計		36,127	76,279	305,124	1,050,682	2,644,689
展示	展示基本計画策定委託	8,138					8,138
	展示実施設計委託	11,620	27,125				38,745
	展示工事設計図書審査委託			1,916			1,916
	展示工事			409,080		613,620	1,022,700
	洛中洛外図複製製作委託			8,589	34,356		42,945
	上杉家文書写真撮影委託				4,099	4,370	8,469
	行屋移設工事					5,722	5,722
	情報ライブラリー演出ソフト制作委託					34,136	34,136
	ディスプレイ用品製作委託					3,486	3,486
	燻蒸業務委託					1,766	1,766
	小 計	19,758	27,125	419,585	38,455	663,100	1,168,023
その他	関連道路整備費		3,458	70,872	80,084	12,592	167,006
	駐車場・広場等整備費			5,040	185,710	96,624	287,374
	初度調弁費					91,785	91,785
	事務費	567	5,545	15,186	14,944	17,941	54,183
	小 計	567	9,003	91,098	280,738	218,942	600,348
合 計		56,452	112,407	815,807	1,495,670	1,932,724	4,413,060
財源内訳	地方債	34,200	101,100	774,100	1,341,300	1,861,700	4,112,400
	うち地域総合整備事業債	34,200	101,100	774,100	1,341,300	1,673,800	3,884,500
	県支出金				2,934	10,000	12,934
	諸収入					300	300
	一般財源	22,252	11,307	41,707	151,436	60,724	287,426

注) 県立施設（置賜文化ホール）の建設費、図書・資料購入費等は含まれていない。初度調弁費には県立施設との共用物品を含む。

新博物館建設にあたり、多くの方々からご協力を賜りました。
ご協力をいただいた方々（H11.4 新文化施設開設準備課設置後）

新博物館開設関係

申出日	寄附申出者	寄附/寄贈	申出事由
H11. 4.13	米沢松が岬ライオンズクラブ 会長 高野安弘氏	1,000,000円	置賜の庭造成工事の 一部として
H11. 5. 8	林 一郎氏	樹木	新博物館開館記念として
H12. 7. 4	近野 正氏	刀 金銘 国真 光徳(花押)雲井鉢切 1口 上杉鷹山書「何處槐風至」「簫々送雁群」 双幅	博物館資料として
H12. 7. 4	山岸オー氏	絹本著色「大威徳明王像」 1幅	博物館資料として
H12.11. 2	本田 昭氏	椿貞雄「卓上秋色」 1面	博物館資料として
H12.11.10	国際ソロプチミスト米沢 代表 村越容子氏	200,000円	博物館資料整備基金の 積立金として（H11 以前に 総額1,300千円寄附あり）
H13. 3. 1	栗林金郎氏	栗林家資料	博物館資料として
H13. 6.20	長谷部純一氏	100,000円	新博物館開館記念として
H13. 9.18	上杉鷹山公と郷土の先人を 顕彰する会	1,000,000円	(財)米沢上杉文化新興財団 出損金として
H13. 9.20	福王寺法林氏	福王寺法林「能舞台鏡板下絵」 1面	博物館資料として
H13. 9.28	雫山形銀行 代表取締役 丹羽厚悦氏	桜井祐一「怒りと悲しみと」 1体	博物館資料として
H13.10. 7	米沢中央ライオンズクラブ 会長 板垣勝雄氏	催物案内サイン(館外東側に設置) 1式	新博物館開館記念として
H13.10.11	内山敬子氏	1,000,000円	(財)米沢上杉文化新興財団 出損金として
H13.10.19	遠藤賢太郎氏	遠藤賢太郎「民族博物館－霊」他 6面	博物館資料として
H13.12.27	古池 貢氏	吉池青園「停車場」 他 4面	博物館資料として
H14. 3.15	山寺重子氏	土田文雄 スケッチブック 1冊	博物館資料として

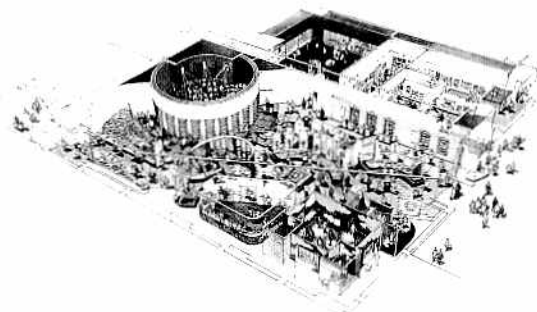
展示工事 監修者・指導者・協力者（順不同）

常設展示全体	米沢・置賜地方の歴史監修・指導 横山昭男氏（山形大学名誉教授） 小野 栄氏（郷土史家）
プロローグ	齋藤茂美氏 最上義光歴史館 上杉神社
家臣召し放さず	建築監修 草野和夫氏（東北工業大学名誉教授） 植生指導 石栗正人氏（植物学者） 民俗指導 武田 正氏（山形女子短期大学教授） 春日敏明氏 雄山閣

次第に困窮に及ぶ	能衣裳指導 金剛流宗家 東京国立博物館 吉川弘文館 鳳台寺 米沢金剛会 阪急学園 池田文庫 大河原重氏
鷹山登場	建築監修 草野和夫氏（東北工業大学名誉教授） 植生指導 石栗正人氏（植物学者） 民俗指導 武田 正氏（山形女子短期大学教授） 新田織物工業 米沢織物工業協同組合 水野 哲氏 相良 隆氏 戸田寒風氏
洛中洛外図の世界	吉村 亨氏（京都学園大学人間文化学部教授） 植木行宣氏（京都学園大学人間文化学部教授） 青盛 透氏（京都学園大学人間文化学部助教授） 東北大学文学部東洋・日本美術史研究室 高野山成慶院 高野山靈宝館 長興寺 豊田市郷土資料館 上杉神社 大井 西光寺 仙台市博物館
1600年以前の置賜	原始・古代に関する指導 三上喜孝氏（米沢女子短期大学講師） 山寺立石寺 仙台市博物館
置賜再発見	築地本願寺 日本建築学会 我妻栄記念館 結城豊太郎記念館 浜田広介記念館 社団法人米沢工業会 米沢織物工業協同組合 帝人株式会社
情報ライブラリー	原始・古代織参考館 那須祐二氏 山田良一氏 民俗事象に関する指導 武田 正氏（山形女子短期大学教授） 植物に関する指導 石栗正人氏（植物学者） 渡辺記美子氏 川島 和子氏 中川小学校生徒 山形県立図書館 成島八幡神社 堂森善光寺 熊野神社



完成後の航空写真



常設展示室バース図

施設の概要

名称（設置者）	米沢市上杉博物館（米沢市）
管理運営	米沢市・助米沢上杉文化振興財団
設計管理	株関・空間設計
建築工事	戸田株・株黒金建設工事共同企業体
電気工事	株弘電社
空調設備工事	弘栄設備工業株
衛生設備工事	情野冷熱機工
展示工事	株乃村工務社
敷地面積	33,887.3㎡
延床面積	4,725.9㎡
構造	鉄骨鉄筋コンクリート
	造り2階建
開館	平成13年9月29日
伝国の杜	
（置賜文化ホールと米沢市上杉博物館の愛称）平面図	

【共通】

1 エントランスホール	321.2㎡
2 事務室	172.0㎡
3 館長室	35.7㎡
4 機械監視室	55.6㎡

【博物館】

① 常設展示室	1,115.8㎡
② 企画展示室	471.2㎡
③ 体験学習室	71.4㎡
④ 情報ライブラリー	80.9㎡
⑤ ミュージアムショップ	15.0㎡
⑥ ミュージアムカフェ	79.3㎡
⑦ 一般収蔵庫	330.0㎡
⑧ 特別収蔵庫	201.5㎡
⑨ 展示倉庫	148.9㎡
⑩ 写真	38.7㎡
⑪ 調査室	53.0㎡
⑫ 荷受室	45.1㎡
⑬ 第1・2小会議室	152.2㎡

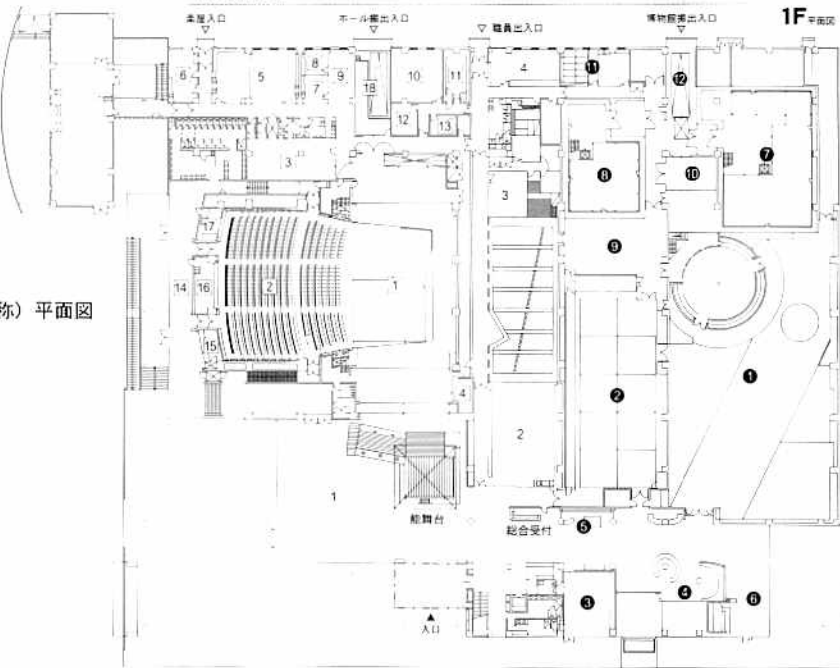
【ホール】

① ステージ	551.1㎡	⑧ 第5楽屋	15.7㎡	⑮ ビュッフェ	14.4㎡
② 客席	426.0㎡	⑨ アーティストラウンジ	28.9㎡	⑯ 効果調整室	24.7㎡
③ 舞台倉庫	75.5㎡	⑩ 第1練習室	55.5㎡	⑰ 親子室	14.4㎡
④ ピアノ庫	19.7㎡	⑪ 第2練習室	34.4㎡	⑱ 荷受室	65.9㎡
⑤ 第1・2楽屋	98.9㎡	⑫ 第3練習室	18.2㎡	⑲ 大会議室	188.7㎡
⑥ 第3楽屋（楽屋事務室兼用）	33.5㎡	⑬ 第4練習室	11.7㎡		
⑦ 第4楽屋	15.8㎡	⑭ ホワイエ	302.1㎡		

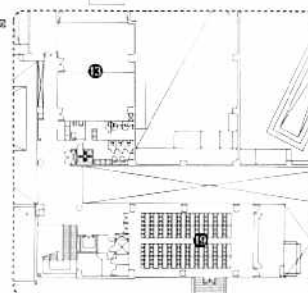
伝国の杜

DENKOKU NO MORI

伝国の杜は、山形県の置賜文化ホールと米沢市上杉博物館の合築施設です。



2F



事業の概要

1. 新博物館準備事業

(1) 調 査

①常設展示構成に関わる調査

ジオラマ、映像、グラフィックパネル、検索装置等を構成する歴史的、美術史的背景の調査を行った。

調 査 内 容	調 査 場 所	展示ゾーン
善光寺旧蔵大般若經調査	山寺立石寺（山形市）	1600年以前の世界
写経姿調査	堂森善光寺（米沢市）	1600年以前の世界
写経姿調査	笹野幸徳院（米沢市）	1600年以前の世界
発掘資料の調査（一ノ坂・古志田東遺跡）	埋蔵文化財資料室（米沢市）	1600年以前の世界
大河原文書の調査（赤穂事件）	大河原氏宅（川崎市）	次第に困窮に及ぶ
酒蔵の調査	東光の酒蔵（米沢市）	なせばなる鷹山登場
成島焼制作工程取材及び資料調査	米沢焼制作者 水野哲氏宅	なせばなる鷹山登場
相良人形制作工程取材及び資料調査	相良人形制作者 相良隆氏宅	なせばなる鷹山登場
笹野一刀彫制作工程取材及び資料調査	笹野一刀彫制作者 戸田寒風氏宅	なせばなる鷹山登場
米沢織関係資料調査	原始布古代織参考館（米沢市）	なせばなる鷹山登場
発掘資料の調査（人骨・漆紙文書・水路）	埋蔵文化財資料室	置賜再発見
火縄銃の調査	米沢市立上杉博物館	置賜再発見
先人に関する聞き取り調査	山形芸工大名菅教授 松野良寅氏宅	置賜再発見
伊東忠太関係資料調査	日本建築学会（東京都）	置賜再発見
我妻栄関係資料調査	我妻栄記念館（米沢市）	置賜再発見
浜田広介関係資料調査	浜田広介記念館（高島町）	置賜再発見
結城豊太郎関係資料調査	結城豊太郎記念館（南陽市）	置賜再発見
米沢織、人絹関係資料調査	米沢工業会（山形大学工学部）	置賜再発見
「かてもの」所収植物画の調査	植物研究家 石栗正人氏宅	展望室
「かてもの」所収植物の調査	植物研究家 石栗正人氏宅	情報ライブラリー
行屋関係資料（お籠用具・登拝用具）調査	農村文化研究所	情報ライブラリー

②資料収集に関わる調査

- ・ 対象資料の確認、所蔵者への取材、写真撮影、計測等を行った。
- ・ 文献については解説または大意の把握、内容の検討、作者等についての調査、目録作成及び専門家への調査依頼を行った。
- ・ 絵画・書跡等美術工芸品については、新博物館開館に伴い、上杉家ゆかりの美術工芸品、置賜出身作家の作品を中心に、積極的に収集を行った。収集に伴い、以下の資料調査を行った。伝来、作者、使用者等についての調査をするとともに専門家へも調査を依頼した。
- ・ 資料収集検討会議及び資料収集委員会の資料を作成した。

調査資料一覧

文 献

- 1 吉川文書
- 2 中津川氏（旧米沢藩士）伝来資料
- 3 細井平洲書（5件）
- 4 秋月種樹書
- 5 上杉氏（旧米沢藩主）所蔵資料
- 6 上杉謙信書（2件）
- 7 上杉鷹山書（3件）
- 8 直江兼統書状（2件）
- 9 神保蘭室書

歴史資料

- 1 栗子新道画図
- 2 米沢藩鉛
- 3 菓子製造道具
- 4 米沢城下絵図
- 5 古写真

美術工芸品

- 1 吉池青園作品（1件）
- 2 福王寺法林作品（2件）
- 3 蒔絵煙草盆
- 4 桜井祐一作品（1件）
- 5 鈴木実作品（1件）
- 6 刀剣（1件）
- 7 歌川豊国（1件）
- 8 蒔絵かさね箱（1件）
- 9 直江大和守甲冑
- 10 渡邊崋山作品（1件）
- 11 椿貞雄作品（5件）
- 12 上杉宗房甲冑
- 13 京名所十二ヶ月屏風
- 14 山水図屏風
- 15 本間国生作品（2件）
- 16 下條桂谷作品（3件）
- 17 添田家甲冑・陣羽織
- 18 金梨子地龍竹雀紋蒔絵刀筒
- 19 目賀多信済・三井親和書屏風
- 20 目賀多雲川（守息）作品（2件）
- 21 目賀多守如作品（1件）
- 22 菅原白龍作品（3件）
- 23 松竹・竹に雀紋黒漆塗飯櫃・湯桶

24	遠藤賢作品
25	目賀多・東溪作品
26	米沢新田藩関係刀装具関係資料

(2) 展 示

平成13年度の特別展等について資料の確認、調査、所蔵者への取材、交渉等を行い、展覧会の具体化を目指した。また、平成14、15、16年度の特別展等について計画し、14年度分について検討、決定した。

平成13年度展覧会準備

開館記念特別展「上杉家の至宝」
国立歴史民俗博物館所蔵 国宝「宋版史記」の熟覧等
企画展「青の継承－福王寺法林・一彦おやこ展」
所蔵者と作品の調査、法林(三鷹市)、一彦(世田谷区)両氏への取材出張等
企画展「上杉家文書を知る」
未解読文書の解読、周辺文献の調査等
企画展「米沢ゆかりの絵師たち」
画題調査、写真撮影等
企画展「おもて－大塚亮治の面－」
大塚亮治氏(静岡県島田市)への取材出張等
企画展「かたちと色－桜井祐一没後20年・土田文雄生誕100年」
作者についての調査、写真撮影等

平成14年度展覧会準備

特別展「上杉家の至宝二」
佐藤博物館所蔵資料の調査等
企画展「風土の画家－遠藤桑珠」
額装作業、写真撮影等
企画展「近くてなつかしい昭和展」
資料借用打合等
企画展「わたし自身の肖像－鈴木実木彫展」
共催館との打ち合わせ等
企画展「戦国を生き抜いた上杉氏－国宝「上杉家文書」の世界－
資料選定等

(3) 保存管理

- ・ 建築・展示工事の影響から保存環境を安定させるため、新館収蔵庫、展示室などの換気、アルカリ濃度測定、温湿度測定を行い、除湿や換気など種々の対策を実施した。
- ・ 新博物館への資料移動にむけての梱包と実際の移動作業

(4) 移転作業

- 8月1日 建物管理引継ぎ
- 8月2日 引越のための養生開始
- 8月6日 購入備品等納品開始
旧博物館資料の梱包と運搬（～13日）
- 8月17日 養生撤去



2. 開館記念式典

式典日時 平成13年9月28日（金）午後5時30分～

(1) テープカット

(2) 金剛流舞囃子「高砂」

(3) 式典

(4) 上杉博物館展示案内

* 展示内覧会（午後2時30分～）

高円宮憲仁親王殿下（平成14年11月薨去）の御臨席を賜り、上杉家当主をはじめ山形県知事、米沢市長他の列席のもと、秋涼の夕日が影を長くする中、建物出入口前においてテープカットが行われた。その後ホールに移り、市立博物館と県立文化ホールとの合築施設という新しい文化施設の門出に相応しく、金剛流宗家による舞囃子のあと、式典には公募による招待者を含め満席の500名が参列して、華やかな中にも厳かに挙行された。式典終了後には、常設展並びに開館記念特別展「上杉家の至宝」の展示案内を行い、市民待望の博物館のお披露目を行った。夕闇に包まれる頃、建物前広場には篝火が焚かれ、歴史と伝統芸能が織りなす幽玄な世界が醸し出された。



米沢市上杉博物館展示の目的

当館の立地は、隣接する上杉神社・上杉記念館・上杉城史苑などを含めた、観光の拠点である。市民はもちろんのこと、多くの観光客も来館する。その一方で、国宝を有する館であり、また上杉家の歴史を担う館でもあるため、それらを目的とした調査・研究・学習のための来館者も多い。

また、学校週5日制に伴い、実物資料を持つ博物館だからこそ地域学校と連携し、こどもたちに担っていく役割も大きい。

これらを踏まえ、郷土の歴史や文化財に対する知識を深め、その魅力をより感じていくことができるような展示を展開していくと共に、広く「文化」に対する理解や参加の仕方を啓蒙し、より豊かな思考や生活の一助となっていく。

展示の性格

展覧会は、企画展（特別展含む）と常設展示・上杉文華館展示により展開する。

各展示の性格は以下のとおりとする。

常設展示

置賜・米沢の歴史・美術を紹介する常設展示は「見る・ふれる・楽しむ」をコンセプトとして構成されている。上杉氏の米沢入りから上杉鷹山の改革による置賜の再生までの近世米沢藩の歴史を紹介する。「置賜歴史街道」。鷹山の改革における苦悩と再起を17分程度のドラマとして上映する「鷹山シアター」。国宝「上杉本 洛中洛外図屏風」をCG技術を駆使した動画として楽しむ「洛中洛外図の世界」。上杉氏以前の縄文時代から戦国時代までをトピックス的に展示する「1600年以前の置賜」。同じくトピックス的に置賜の歴史を紹介する「置賜再発見」。ここでは古墳時代から近代までを対象に、また国宝「上杉家文書」に関する展示などがある。

また、これらの展示ではイメージを膨らませるためのイラストやジオラマ、種々の映像、古文書の折り方やシュミレーションによる火縄銃の射撃などを体験、また各コーナーに設けられたパソコン画面にふれることでより詳しい情報を引き出すことができる。

上杉文華館（常設展示室内）

常設展示室の一コーナーである「上杉文華館」は、「上杉本 洛中洛外図屏風」（複製）とともに上杉・置賜ゆかりの歴史資料・美術工芸品などの原本を展示。

企画展示

上杉・米沢に限らない広い視野で企画し、市民に「鑑賞の場」を「体験の場」を提供していく。

米沢ゆかりの上杉に関連する展示

多角的な視野からテーマを設定し上杉家の歴史的立場、米沢の現在につながるものを、連続して展開していく。また、「洛中洛外図屏風」(原本)の展示を行う。

教育普及的な展示

博物館は広い意味での教育施設であり、対専門家だけではなく、こどもや市民に学んでもらうことが非常に大きな使命である。

ハンズ・オンなどの手法により、体験できる展示を展開し、実際に体験することで生まれる驚きや、気付きを触発していく。また、教育の新しいフィールドとしても利用してもらう。これらを行っていくことで、利用者との距離を縮め、博物館の認知度を高めていく。また、地元ではなかなか見ることの出来ない内容の展覧会もここに含む。

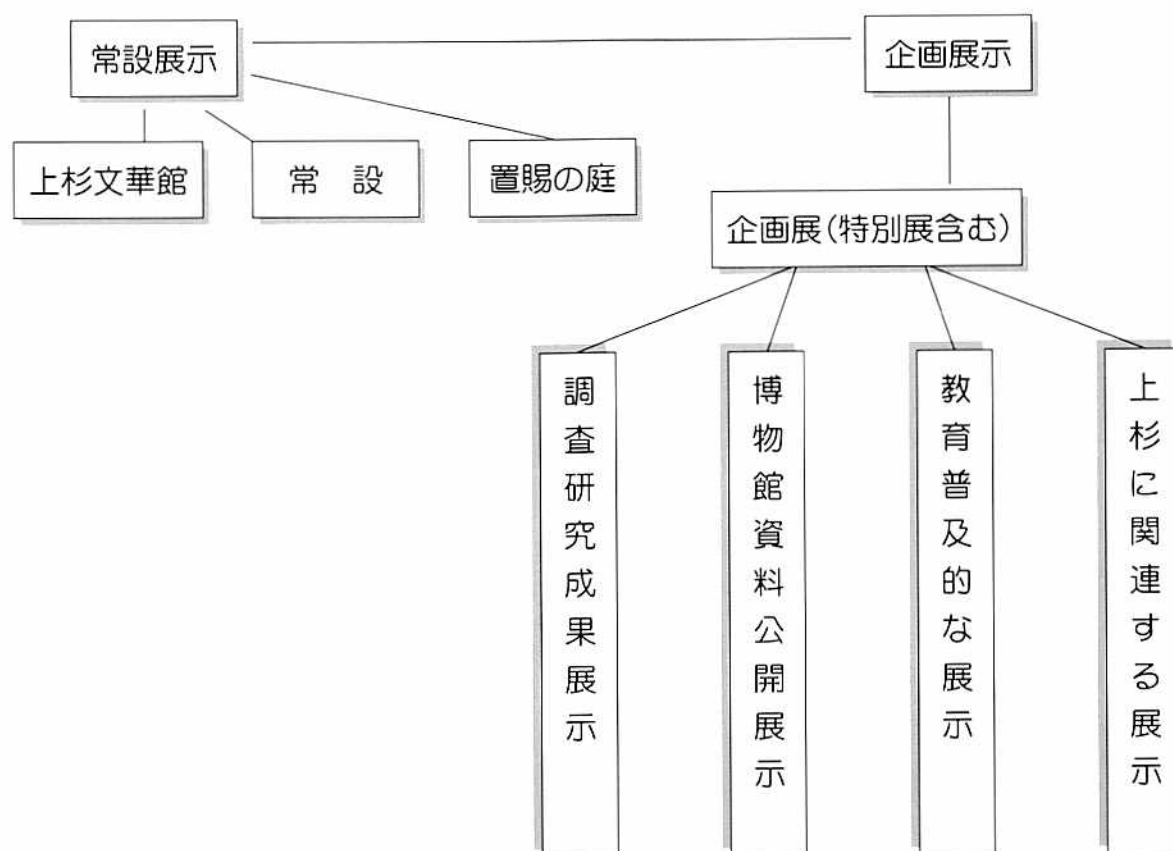
市民の財産としての博物館資料を公開する展示

まとまって寄贈された資料の紹介や、未公開の資料を公開していく。

調査・研究の成果を展示

米沢・置賜の歴史や、館蔵資料について、調査・研究の成果をシリーズで展開させていく。

米沢市上杉博物館 展示事業の骨組み



平成13年度 常設展示

常設展示 上杉文華館

会期中展示資料への理解を深めてもらうために、当館学芸員によるコレクショントークを実施した。平成13年度にはテーマを設定しながら4回の展示を行った。具体的なテーマ、展示資料などは以下のとおりである。所蔵を明記していないものは当館所蔵。

■「洛中洛外図屏風と上杉家文書」 会 期 平成13年11月6日～12月2日

コレクショントーク 「上杉家文書の魅力」 11月17日（土）午後2時より 当館学芸員

展示資料

上杉本 洛中洛外図屏風（複製）

足利義植御内書（年未詳） 十二月三十日（国宝「上杉家文書」）

足利義植御内書（年未詳） 三月二十九日（国宝「上杉家文書」）

畠山卜山書状（永正一七年） 六月十九日（国宝「上杉家文書」）

畠山卜山書状（永正一七年） 五月十三日（国宝「上杉家文書」）

畠山卜山書状（永正一七年） 八月二十三日（国宝「上杉家文書」）

畠山卜山書状（永正一七年） 十二月七日（国宝「上杉家文書」）

■「上杉謙信」 会 期 平成13年12月5日～12月28日

コレクショントーク 「謙信と米沢」 12月15日（土）午後2時より 当館学芸員

展示資料

上杉本 洛中洛外図屏風（複製）

紫白地竹雀丸文綾腰替小袖（重要文化財〔上杉神社〕）

縹地平絹直垂（衣）（袴）（重要文化財〔上杉神社〕）

太刀 銘 長船長光 文永十一年十月廿五日（重要美術品）

附 黒漆塗打刀拵

上杉謙信（輝虎）署名消息手本 永禄十一年十一月吉日（国宝「上杉家文書」）

■「上杉景勝・直江兼統」 会 期 平成14年1月4日～2月11日

コレクショントーク 「上杉景勝・直江兼統」 1月12日（土）午後2時より 当館学芸員

展示資料

上杉本 洛中洛外図屏風（複製）

赤地雲文緞子斗牛文刻糸胸飾付明服（重要文化財〔上杉神社〕）

明服下着（重要文化財〔上杉神社〕）

上杉景勝自筆書状（年月日未詳）（国宝「上杉家文書」）

直江兼統自筆五楽願書 慶長二十年正月朔日（国宝「上杉家文書」）

■「上杉鷹山」 会 期 平成14年2月16日～3月31日

コレクショントーク 「上杉鷹山とその時代」 2月23日（土）午後2時より 当館学芸員

展示資料

上杉本 洛中洛外図屏風（複製）素懸水浅葱糸威腹巻（県指定文化財）〔上杉神社〕

藍地手猫友禅帷子「宮坂考古館」上杉鷹山自筆書状（年月日未詳）（国宝「上杉家文書」）

上杉鷹山肖像画（左近司惟春筆）上杉鷹山肖像画（上杉熊未松筆）

平成13年度 企画展

開館記念特別展「上杉家の至宝」

会 期：平成13年9月29日（土）～11月4日（日）

開館日数：37日間（休館日なし）

場 所：1階企画展示室（100%使用）

展示資料：44件

入場者数：86,224人

関連行事 ■講演会「上杉家文書－国宝への道－」

／藤本孝一氏（文化庁美術学芸課主任文化財調査官）

／10月8日（月）午後1時より 大会議室

／参加人数 約100名

「上杉家に伝来した刀剣・甲冑」／廣井雄一氏（日本刀装具美術館館長）

／10月13日（土）午後1時より 大会議室

／参加人数 約50名

「洛中洛外図－平成の修復」

／鬼原俊枝氏（文化庁美術学芸課文化財調査官）

／10月20日（日）午後1時より 大会議室

印刷物 ■ポスター B2判、■チラシ A4判

■図録「開館記念特別展上杉家の至宝」A判80頁



内 容

新博物館の開館を記念し、米沢ゆかりの旧米沢藩主上杉家に伝わった資料を紹介した。常設展示室では米沢を中心に置賜の歴史を広く紹介しているため、本展覧会では、中でも江戸時代以降の歴史をつかった上杉家に焦点をあて、その遺品から謙信以来の上杉家の足跡をたどった。

展示構成：①武器・武具 ②絵画 ③能面 ④調度 ⑤典籍・古文書・印章

展示品

①武器・武具

1 紫系威伊予札五枚胴具足（県文）	一領	上杉神社
2 浅葱系威錆色塗切付札二枚胴具足（県文）	一領	宮坂考古館
3 紺緋羅紗袖替陣羽織（重文）	一領	上杉神社
4 毛氈鞍覆	一領	上杉神社
5 太刀 無銘 菊作 附 黒漆打刀拵	一口	東京国立博物館
6 太刀 銘 一（号 姫鶴一文字）（重文） 附 黒漆合口打刀拵	一口	米沢市上杉博物館
7 太刀 銘 弘口（重文） 附 黒漆打刀拵	一口	東京国立博物館
8 大太刀 銘 備前国長船兼光延文二二年二月日（重文）	一口	東京国立博物館
9 太刀 銘 長光（号 高木長光）（重文）	一口	個人
10 黒革包金桐紋糸巻太刀（重文）	一口	東京国立博物館

②絵画

11 上杉本 洛中洛外図屏風（国宝）	六曲一双	米沢市上杉博物館
12 厩図屏風（県文）	六曲一双	米沢市上杉博物館
13 紫綾金泥両界曼荼羅図（重文）	二幅	上杉神社

14	大威徳明王像（県文）	一幅	米沢市上杉博物館
③能面（上杉家旧蔵能面のうち）			
15	笑尉	一面	東京国立博物館
16	神体	一面	東京国立博物館
17	小天神	一面	東京国立博物館
18	怪土	一面	東京国立博物館
19	俊寛	一面	東京国立博物館
20	景清	一面	東京国立博物館
21	弱法師	一面	東京国立博物館
22	万媚	一面	東京国立博物館
④調度			
23	橘松竹南天葵紋鏡	一面	米沢市上杉博物館
24	橘松竹葵紋蒔絵鏡箱	一合	米沢市上杉博物館
25	橘松竹葵紋蒔絵鏡建	一基	米沢市上杉博物館
26	橘松竹葵紋蒔絵挟箱	一合	米沢市上杉博物館
27	松竹梅鶴亀葵紋蒔絵貝桶	一對	米沢市上杉博物館
28	橘松竹葵紋蒔絵香道具	一式	個人
29	松竹梅葵紋蒔絵茶筆筥	一基	個人
30	竹に雀紋七宝繫蒔絵台子	一基	仙台市博物館
⑤典籍・古文書・印章			
31	宋版史記（国宝） 黄善夫刊本 第9冊～13冊 附 外箱	五冊	国立歴史民俗博物館
32	宋版漢書（国宝） 慶元刊本 第1冊～5冊	五冊	国立歴史民俗博物館
33	宋版後漢書（国宝） 第56冊～60冊	五冊	国立歴史民俗博物館
34	宋版備急千金要方（重文） 巻第1～5	五冊	国立歴史民俗博物館
35	上杉家文書（国宝） 後奈良天皇女房奉書	一通	米沢市上杉博物館
36	足利義輝御内書二月二八日	一通	米沢市上杉博物館
37	足利義輝御内書二月二日	一通	米沢市上杉博物館
38	足利義輝御内書六月二九日	一通	米沢市上杉博物館
39	武田勝頼書状	一通	米沢市上杉博物館
40	豊臣秀吉朱印状	一通	米沢市上杉博物館
41	高台院消息	一通	米沢市上杉博物館
42	徳川家綱一字書出	一通	米沢市上杉博物館
43	上杉治憲書状	一通	米沢市上杉博物館
44	長尾上杉氏印章（重文）	二七顆	個人



企画展「青の継承 ― 福王寺法林・一彦おやこ展」

会 期：平成13年11月10日（土）～12月2日（日）

開館日数：23日間（休館日：11月12,19,26日）

場 所：1階企画展示室（90%使用）

展示資料：25点

入場者数：5,839人

関連事業 ■テープカット 福王寺法林・福王寺一彦両氏による
／1月10日（土）9:00～

印刷物 ■ポスター B2判、■チラシ A4判

■図録「青の継承―福王寺法林・一彦おやこ展」A判32頁



内 容

院展で活躍する米沢市出身の福王寺法林と、その息子で同じく院展の若手の中心を担う福王寺一彦。二人の親子として、また師弟としての展覧会を、法林のふるさとである米沢において、二人をつなぐ青色の絵具をキーワードに、県内の福王寺作品を中心に紹介した。

展示構成：①福王寺法林（近年の作品・ヒマラヤシリーズ・置賜地方に残る作品・素描）

②福王寺一彦

展示品

①福王寺法林

1	朴青葉	1950年	第35回院展	山形県庁
2	山の変電所	1951年	第36回院展	米沢市立第二中学校
3	春暮			米沢市立第三中学校
4	斜平山			米沢市立第一中学校
5	麦	1958年	第43回院展（佳作賞）	個人
6	祈る高砂族	1967年	第9回国際展	山形美術館
7	高砂族の舞	1972年	第57回院展	米沢市上杉博物館
8	バドガオンの月	1982年	第67回院展	福島県立美術館
9	ヒマラヤの花	1983年	第68回院展	福島県立美術館
10	聖なる山（ヒマラヤ）	1990年		吉野石膏コレクション（天童市美術館寄託）
11	寒月富士	1993年	第78回院展	個人
12	如月午前五時	1994年	第79回院展	個人
13	長崎夜景	1998年	第83回院展	個人
14	斜平山（素描）			米沢市立西部小学校

15	桜坊（素描）	1969年		個人
16	バドガオン・朝（素描）	1979年		個人
17	バドガオン・昼（素描）	1979年		個人
18	バドガオン・夕（素描）	1979年		個人
②福王寺一彦				
19	追母影	1978年	第63回院展（初入選）	個人
20	蛭	1992年	第77回院展	個人
21	月華舞う蝶	1995年	第50回春の院展	個人
22	蛭 二	1996年	第81回院展（文部大臣賞）	個人
23	星降る海に 二	1997年	第52回春の院展	個人
24	月の耀く夜に 三	2000年	第85回院展（日本芸術院賞）	個人
25	月映る頃	2000年		米沢市上杉博物館



企画展「国宝指定記念 上杉家文書を知る」

会 期：平成13年12月8日（土）～12月28日（金）

開館日数：18日間（休館日12月10,17,25日）

場 所：1階企画展示室（90％使用）

展示資料：62件

入場者数：1,761人

印刷物 ■ポスター B2判、■チラシ A4判



内 容

平成13年7月、武家文書としてはじめて国宝に指定された上杉家文書。それを記念して、中世から明治時代までの上杉家の歴史を語る古文書、やり取りされた当時のすがたの分かる古文書や保存に使用されてきた筆筒などを紹介した。また上杉家文書所収ではないが、「米沢本 川中島合戦図屏風」を初公開した。

図録は作成しなかったため、展示史料の一部を解説した解説シートを作成・配布した。

展示構成：①上杉家の歴史 ②「もんじょ」の形 ③筆筒に入っていたんだ ④サインとはんこ

展示品

①上杉家の歴史

中世上杉氏の台頭

- | | | |
|---|--------|-------------|
| 1 | 足利尊氏書状 | （年未詳）一二月一二日 |
| 2 | 足利直義書状 | （建武四年）五月一九日 |
| 3 | 足利基氏書状 | （貞治二年）三月二四日 |
| 4 | 上杉憲実譲状 | 文安元年八月 日 |

越後長尾氏の活躍

- | | | |
|---|-------------|-------------|
| 5 | 足利義教御内書（1巻） | |
| 6 | 長尾為景判物 | 永正一一年一二月二三日 |
| 7 | 後奈良天皇綸旨 | 天文四年六月二三日 |
| 8 | 後奈良天皇綸旨 | （天文九年）九月二七日 |

謙信の周辺

- | | | |
|----|------------|-------------|
| 9 | 上杉謙信書状 | （弘治二年）八月一七日 |
| 10 | 大館晴光書状 | （永禄二年）六月二九日 |
| 11 | 鉄砲葉の方并調合次第 | 永禄二年六月二九日 |
| 12 | 近衛前久書状 | （永禄四年） |

13 関東幕注文

14 足利義昭御内書 (永禄一二年) 四月七日

15 織田信長書状 (永禄一二年) 四月七日

16 米沢本 川中島合戦図屏風

上杉景勝、越後から米沢へ

17 武田勝頼条目 (天正七年) 八月二〇日

18 豊臣秀吉直書 (天正一七年) 九月二八日

19 幕府老中連署状 (慶長一九年) 一〇月二三日

20 徳川家康書状 (慶長四年) 九月一四日

上杉鷹山、改革への道

21 神保蘭室(容助)意見書 (年未詳) 一一月一九日

22 細井平洲教誨状 (年未詳) 八月

23 上杉斉定伺書並上杉鷹山朱筆勘返状 (年未詳) 正月七日

24 上杉鷹山書状 (年未詳) 九月八日

江戸幕府と上杉家

25 徳川綱吉知行判物入箱 貞享二年九月二一日

26 徳川綱吉知行判物 貞享二年九月二一日

27 徳川綱吉領知目録入箱 貞享二年九月二一日

28 徳川綱吉領知目録 貞享二年九月二一日

29 上杉宗房官物記録入黒漆塗箱

30 上杉宗房官物記録 宣旨(任侍従) 享保一九年一二月一一日

31 上杉宗房官物記録 徳川吉宗一字書出 享保一九年一二月一一日

32 上杉宗房官物記録 蹴鞠冠懸緒許状入箱

33 上杉宗房官物記録 宗房判形勘文 (年月日未詳)

上杉家文書にみる藩主たち

34 上杉景勝書状 (年未詳) 一一月八日

35 上杉定勝書状 (年未詳) 三月一一日

36 上杉綱憲和歌

37 上杉宗房書付

38 上杉鷹山和歌

39 上杉治広書状 (文化九年) 一〇月二五日

40 上杉斉定詠詩

41 上杉斉憲書状案 (年未詳) 一二月朔日

42 太政官辞令 明治一四年五月一八日

②「もんじょ」のかたち

43 足利義晴御内書 (享禄三年) 九月二八日

44 足利義晴御内書 (享禄四年) 一二月二日

45 北条氏綱書状 (大永四年) 一二月二三日

46 畠山勝王書状 (永正一六年) 一〇月一九日

47 大館常興書状 (享禄三年) 九月二八日

48 大内義隆書状 (年未詳) 一一月五日

49 大館常興書状 (大永七年) 五月二三日

50 豊臣秀吉直書 (天正一五年) 一一月二二日

51 上杉謙信書状 (年未詳) 一〇月一〇日

52 北条氏康書状 (永禄一二年) 六月一〇日

53 後陽成天皇口宣案 天正一六年八月一七日

54 豊臣秀吉朱印状 (年未詳) 一二月二八日

筆筒に入っていたんだ

55 両掛入文書箱

56 精選古案両掛入文書箱・旧保存箱

57 赤筆筒 (乾)

サインとはんこ

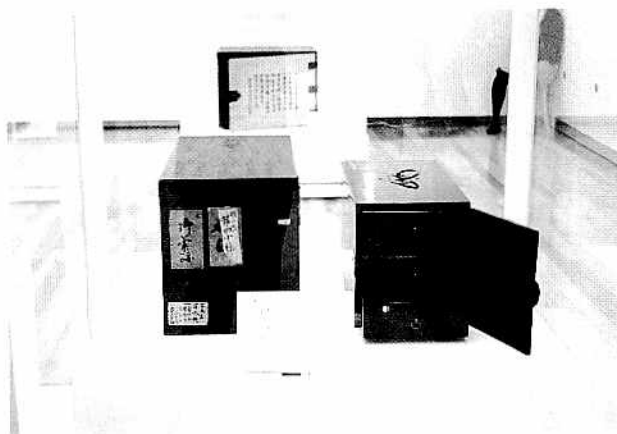
58 足利尊氏安堵状 元徳四年二月二九日

59 足利義満御内書 (康暦元年) 四月一五日

60 上杉謙信書状 (年未詳) 一二月二八日

61 上杉謙信願文 元亀三年六月一五日

62 上杉景勝条目案 (天正八年) 一二月一四日



企画展「米沢ゆかりの絵師たち」

会 期：前期 平成14年1月 4日(金)～1月14日(月・祝)

後期 平成14年1月19日(土)～2月11日(月・祝)

開館日数：31日間（休館日：1月7,21,28日,2月4日）

場 所：1階企画展示室（前期90％、後期50％使用）

展示資料：前期20件 後期17件

入場者数：4,678人

印刷物 ■ポスター B2判、■チラシ A4判

米沢ゆかりの絵師たち

■ポスター
前期 ●1月 4日(金)～1月14日(月・祝)
後期 ●1月19日(土)～2月11日(月・祝)
開館日数 31日間（休館日 1月7,21,28日,2月4日）
入場料 全席 500円（小学生以下 200円）

■チラシ
「おもて一大塚熊出の面」
1月19日(土)～2月11日(月・祝)
●この期間中「米沢ゆかりの絵師たち」の
●展示室は、企画展示室に変わります。

佐田の社
米沢市上杉博物館



内 容

江戸時代、米沢藩で活躍したお抱え絵師である目賀多家。館蔵資料の中から屏風・掛軸・日記を展示。他に、目賀多に師事した藩士の小田切寒松軒、左近司惟春の絵画資料も展示した。お抱え絵師という立場、また粉本により、当時、狩野派の流れの中で位置付けられた画の習得の仕方を紹介。

展示構成：①七福神 ②目賀多家とその弟子 ③粉本と日記

展示品

(※は前期のみ)

①七福神

1 布袋図	一幅	絹本著色	江戸時代	目賀多信済（雲川）
2 寿老人図	一幅	紙本著色	江戸時代	左近司惟春
3 恵比寿大黒門付図	一幅	紙本著色	江戸時代	狩野文信

②目賀多家とその弟子

4 松鶴図屏風	六曲一双	紙本著色	江戸時代	左近司惟春
5 竹林七賢図・商山四皓図屏風	六曲一双	紙本著色	江戸時代	目賀多守如
6 山水図屏風	六曲一双	紙本墨画	江戸時代	目賀多信済 *
7 山水図	一幅	紙本墨画	江戸時代	目賀多守息（雲川）
8 山水図	一幅	紙本墨画	江戸時代	小田切寒松軒
9 聖賢図	双幅	紙本著色	江戸時代	目賀多守如 *
10 山水図	一幅	絹本墨画淡彩	江戸時代	目賀多信済（雲林） *

③粉本と日記

11 勝絵粉本	一卷	紙本淡彩	江戸時代	目賀多信済
12 花卉図粉本	一卷	紙本淡彩	江戸時代	目賀多信済
13 粉本（馬 ほか七図）	一卷	紙本墨画	江戸時代	目賀多家
14 粉本（七福神 ほか）	一卷	紙本墨画	江戸時代	目賀多家
15 粉本（斜平愛宕山之図）	一卷	紙本墨画	江戸時代	目賀多信済
16 累日好記	一冊	紙本墨書	文化 6年（1809）	目賀多信済
17 年中雑史	一冊	紙本墨書	文化 7年（1810）	目賀多信済
18 年中記	一冊	紙本墨書	文化 8年（1811）	目賀多信済
19 日記	一冊	紙本墨書	文政 6年（1823）	目賀多信済
20 公用載 略日記	一冊	紙本墨書	文政12年（1829）	目賀多信済

企画展「おもてー大塚亮治の面ー」

会 期：平成14年1月19日（土）～2月11日（日）

開館日数：23日間（休館日：1月21,28日,2月4日）

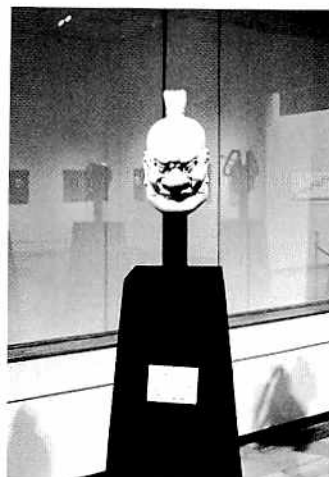
場 所：1階企画展示室（40%使用）

展示資料：25点

入場者数：3,310人

印刷物 ■ポスター B2判（自館制作） ■チラシ A4判

■図録「おもてー大塚亮治の面ー」



内 容

博物館に併設されている置賜文化ホールにおいて、1月27日に「和泉元彌 狂言の世界」が上演された。公演にあわせて、和泉氏の狂言面を制作する面打ち師・大塚亮治の能面・創作面・伎楽面を展示した。展示構成：①創作面 ②古来面

展示品

①創作面

1 幼河童	2000年	11 憎	1997年
2 蚊	1995年	12 凜	1996年
3 蟹	1994年	13 艶	1997年
4 笑いの神	1995年	14 リア王	1993年
5 渋柿	1995年	15 春	1995年
6 山芋	1998年	16 獅子	1998年
7 ロバ	1994年	17 爺	1995年
8 崇徳	1998年	18 婆	1996年
9 妖	1999年	19 童（にっ）	1994年
10 蓮如	1998年		

②古来面

20 翁	2000年	24 迦楼羅	2000年
21 若女	1992年	25 金剛（素彫）	2000年
22 釣眼	1995年		
23 呉女	2000年		

企画展「かたちと色 ― 桜井祐一没後20年・土田文雄生誕100年」

会 期：平成14年2月16日（土）～3月31日（日）
開館日数：38日間（休館日：2月18,25日,3月4,11,18,25日）
場 所：1階企画展示室（80%使用）

展示資料：38点

入場者数：3,499人

関連事業 ■テープカット 桜井祐一・土田文雄両氏の遺族による
／2月16日（土）9:00～

■ギャラリートーク 遠藤賢太郎氏（山形大学名誉教授）
／3月17日（日）午後2時より

／佐藤繁氏（米沢市立第三中学校教諭）3月24日（日）
／午後2時より

印刷物 ■ポスター B2判、■チラシ A4判

■図録「かたちと色―桜井祐一没後20年・土田文雄生誕100年」
A4判 64頁



内 容

米沢を代表する彫刻家・桜井祐一（1914～1981）と洋画家・土田文雄（1901～1973）の没後20年と生誕100年を記念して、それぞれ初期から晩年までの作品を展示。どちらも具象から抽象の時代を経て、再び具象に回帰する作風の変遷を紹介した。

展示構成：①桜井祐一 ②土田文雄

展示品

①桜井祐一（すべて当館蔵、特に表記がなければブロンズ）

1	乞ふ人	1934年	木彫	第21回院展（初入選）
2	壺	1936年	木彫	第23回院展
3	仏法僧（鳥）	1942～43年	木彫	
4	仏法僧（鳥）	1942～43年	石膏	
5	仏法僧（鳥）	1942～43年		
6	自刻像（首）	1940年頃		
7	弟の首	1947年		第32回院展
8	沈む地球	1955年		第40回院展
9	怒りと悲しみと	1957年		第42回院展

10	正樹の顔	1961年	第1回S.A.S展
11	立っている	1961～62年	
12	あるポーズ	1965年	
13	レダ（小）	1977年	
14	ネグリジェの女	1978年	
15	腰かけた女	1980年	
16	五月の女	1981年	第55回国展（絶作）
17	裸婦（デッサン）		
18	裸婦（正面）（デッサン）	1980年	
19	裸婦（側面）（デッサン）	1980年	

②土田文雄（すべて油彩画）

20	くつろぐ女	大正期	個人
21	裸婦	1921年	個人
22	北国秋之行楽	1923年	第2回春陽会 個人
23	アトリエから見た窓外風景（夏の朝）	1933年	第8回国展 山形美術館
24	座像	1936年	第11回国展 山形美術館
25	爽朝（杏花）	1940年	山形美術館
26	白樺	1947年	第21回国展 米沢信用金庫
27	中国服の女	1949年	第3回美術団体連合展 山形美術館
28	鎌倉の海	1956年	米沢市
29	夏	1956年	現代日本美術展 山形美術館
30	海浜の朝	1957年	第2回国際美術展 山形美術館
31	海浜の子供	1958年	第2回現代美術展 山形美術館
32	緑の地図	1958年	第33回国展 山形美術館
33	夏の花	1959年	米沢市上杉博物館
34	南原風景	1950～60年	米沢市立第二中学校
35	記念像A	1963年	第37回国展 山形美術館
36	沖縄の海	1966年	個人
37	女神	1971年	第45回国展 山形美術館
38	建物（パリの窓より）	1972年	絶筆 山形美術館

4. 教育普及事業

目 的

地域の住民（こどもたちも含めた）が地域の自然や文化を正しく理解し、それを継承していくための契機となっていく。歴史や美術をとおして、こどもたちが広い視野で将来を見据えられるような展示や体験学習の提供と出版物の制作を行う。

これらの活動を積み重ねていくことにより、館のステイタスや、その社会的認知度を高めていき、その結果として、住民が博物館（地域のシンボル）をつくっていく一員であるという認識を持つことができ、共に成長していく。

ワークショップ

目でみるだけではなく、手の感触、音、においなどの感覚を伴った体験は、こどもたちに新鮮な驚きと感動を与え、それがこどもたちの興味や関心を高めていく。

これらの体験は文字による学習の何倍もの情報量があり、臨場感を伴うため、自分のイメージを大きくふくらませる楽しみがあり、このイメージづくりの楽しさが自ら学ぼうとする意欲を呼び起こし、それが学習や、日常生活のステップとなっていく。

その手助けをする環境やプログラムなどを提供し、こどもたちが広い視野で将来を見据えられるようなきっかけづくりを行っていく。（生きる力）

■ やってみよう・感じてみよう「洛中洛外図を描こう」

国宝上杉本洛中洛外図屏風を題材に、日本画の材料を使って参加者が自分だけの洛中洛外図を描いてみる。「洛中洛外図」が何なのか、何故米沢にあるのか、などの基本的な情報を伝えることはもとより、日本画用の筆、絵の具などを実際に使用することにより、洛中洛外図がどのような工程で描かれたかの一端を体験してもらった。

日ごろよく目にしている洋画との違いや、細密さを体験したことで、なんとなく「すごいものだ」という理解であった「洛中洛外図屏風」が身近になったと共に、その技術の高さを改めて実感することができた。



開催日時 平成13年10月7日（日）午後1：30～4：00（右隻）

11月3日（日）午後1：30～4：00（左隻）

募集人数：36名（各18名）

参加人数：24名

- 内 容**
- ①上杉本洛中洛外図に関する説明（ワークレッスン）
 - ②日本画に関する説明と道具の使い方の説明
 - ③制作 洛中洛外図（右左）各隻18分割し、をあらかじめ
礬砂を引いた和紙に拡大印刷したものに彩色して
いく。
 - ④鑑賞 実物の鑑賞



■やってみよう・感じてみよう「和紙をつくって 大名のがみを書こう」

企画展「国宝指定記念 上杉家文書を知る」と連動して行うこのワークショップは、上杉鷹山が奨励したともいわれる楮栽培・紙漉き。米沢藩の「御用紙」として発達した白鷹町深山和紙の紙漉きを実際に体験し、自身で漉いた和紙に上杉家文書を手本として花押入りの書状を書いてみた。

深山和紙の歴史的背景やその製造工程を知り、実際に漉くことにより、自然のすばらしさ、それを活かしてきた先人の知恵を改めて実感する。

また、自分の漉いた和紙に、硯、墨、筆などを使い中世の形式で手紙を書くことにより、現在の手紙の原型を発見する。



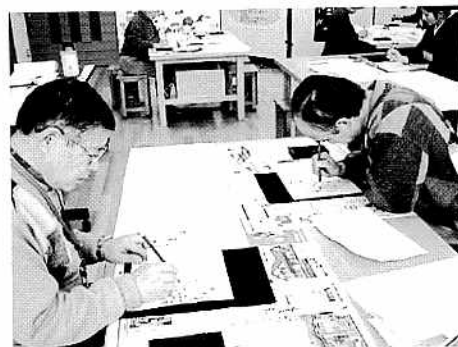
開催日時 平成13年12月 9 日（日） 9：30～14：00

12月16日（日） 13：30～16：00

募集人数 20名 参加人数 9名

会場 12/9 山形県西置賜郡白鷹町大字深山2527 深山和紙振興研究センター
12/16 米沢市上杉博物館体験学習室・企画展示室

内容 ①12/9深山和紙振興研究センターにて、和紙漉き体験
②12/16自分で漉いた和紙に上杉家文書を手本に手紙をかいてみる。形式は中・近世、内容は参加者が書きたい内容。
my花押を考える。
本紙の折り方、封の仕方までを体験
「上杉家文書を知る」の観覧



■アートオリエンテーリング絵とはなそう「日本の絵」

企画展「米沢ゆかりの絵師たち」の開催にあわせたワークショップ。美術館としての役割も担わなければならない当館は、作品や博物館（美術館）が来館者に発見や感動をいかに与えるか、また、そのことによって、来館者が新しい自分を見つけたり、世界を広げたりできる場所であることを実感できるように存在していかなければならない。そのひとつの手法として今回は初めてのアートオリエンテーリングを開催した。

米沢藩時代、御抱え絵師として活躍した目賀多家を中心とした今回の日本画の展示のなかから、別添のような視点を定め、クイズ形式で来館者自らが企画展示室で答えを探するというものである。

作品鑑賞において、これだけが正しい見方、正しい感じ方というものはないが、感じたり、思ったりするひとつのキーワードを提示することでその一助となることを目的とした。



開催日時 1 回目平成14年1月13日（日）午後1：00～4：00

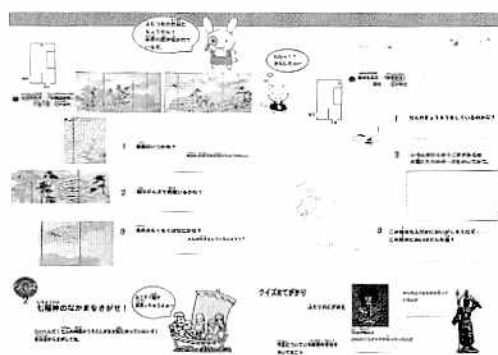
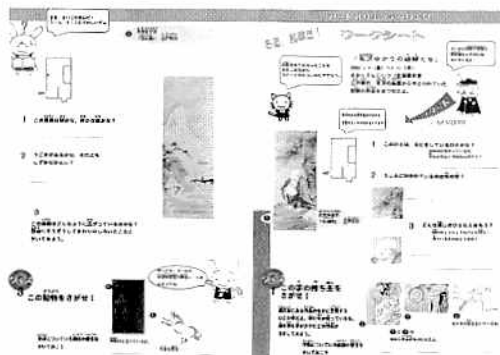
2 回目 2月3日（日）午後1：00～4：00

（開始から終了までは上記時間内であれば自由）

参加自由

参加人数 参加人数 74名

- 内 容
- ①体験学習室で簡単な説明をうけパスポート、アートカードを配布
 - ②アートカードのクイズにそって企画展示の内容から回答を探してもらう。
 - ③答えがみつかったら、体験学習室にて解説カード配布、簡単な解説をする。
 - ④全問正解者には館内の好きな絵画の中に入り込んだ写真(合成)をプレゼントする



アートカード

■やってみよう・感じてみよう「オブジェをつくろうー鑄造のひみつー」

企画展「かたちと色ー桜井祐一没後20年・土田文雄生誕100年」の開催にあわせたワークショップ。

彫刻の制作過程や材料などを紹介しながら、成型技法のひとつである鑄造の感覚をつかんでもらった。「つくって、こわし、またつくる」造形の本来の意味や、その見方や感じ方のヒントをあたえ、つくることのおもしろさを発見してもらうことができた。

開催日時 平成14年3月23日(土)・24日(日)2日間
13:30~16:00

募集人数 18名 参加人数 24名

講師 米沢市立第三中学校美術教諭 佐藤 繁氏

内容 ①彫塑にかんするワークレッスン
②制作過程、材料説明
③制作(2日間)
④参加者作品の鑑賞
⑤企画展鑑賞
⑥まとめ

制作する作品はピューターインゴットメタルを使用。

メタルは270℃の低融点で溶解。原型を発泡スチロールでつくり、途中の型どり工程をとばし、ダイレクトに鑄込む製作技法。

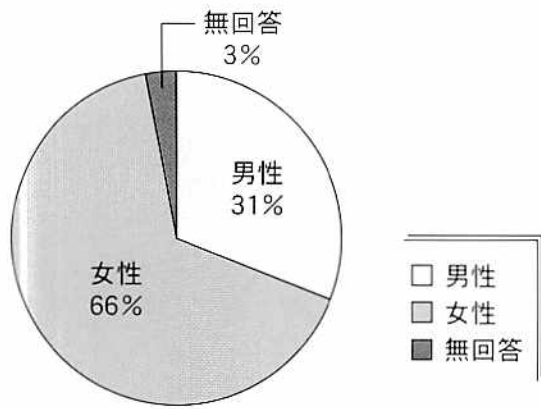


平成13年度に開催した前述の4つのワークショップ参加者に回答していただいたアンケート
を下記にまとめた。
開館半年で200人を越す方々に参加していただいた。

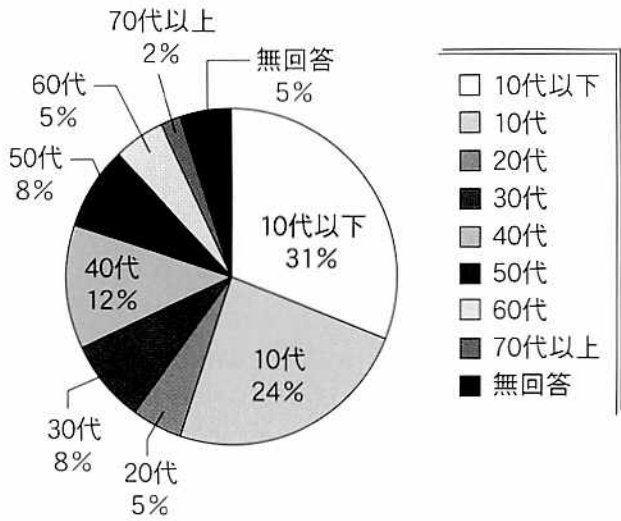
ワークショップアンケート集計
2001.10.7 - 2002.3.24

参加者 205名
回答者 172名
回答率 83.9%

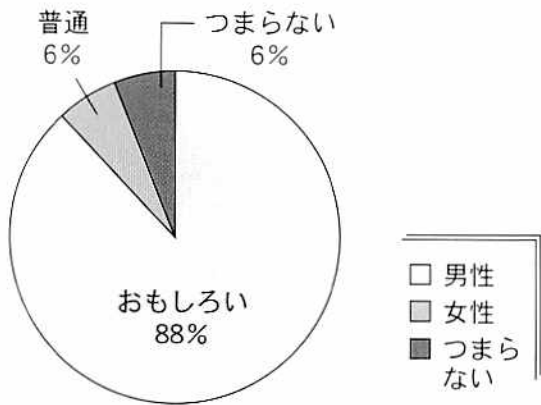
☆ 性 別



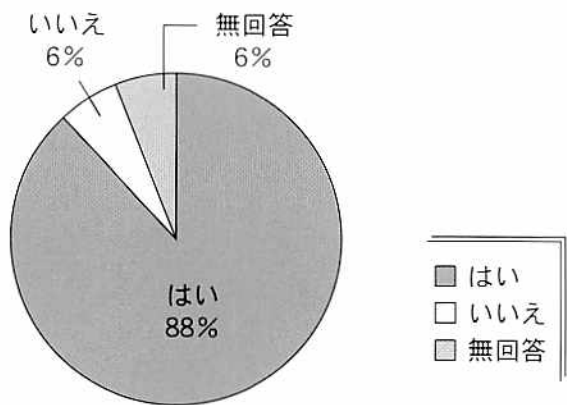
☆ 年 齢



☆ あてはまるところに○をつけてください。



☆ またワークショップに参加したいとおもいますか。

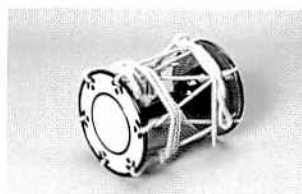


プレイショップ

「Hands and Heart ～手と心で感じよう～」をテーマに、日頃、様々な想像と創造力を生み出すきっかけのひとつとなる場所・空間・時間を提供し、純粹に心で感じ、楽しんでもらう。日本古来の楽器や玩具、日本独自の手工芸などを紹介するとともに、スイッチやボタン一つで動いてしまうものではなく、自らの手で触り、動かし、感じることを提供できる環境を提供する。現在失われつつある日本の伝統を一部ではあるが伝承していく。



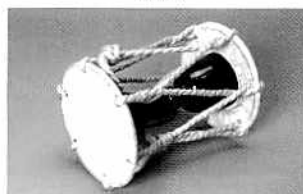
体験学習室 プレイショップの様子



小鼓



能管



大鼓



締め太鼓

各テーマツール

テーマ	項目	主旨	展開	ツール
伝承遊び	あそぶ ～日本の あそび～	親の世代には懐かしくても、子供たちにとっては初めての物も多いはず。昔の遊びを紹介し、体験してもらうことにより、協調性や応用力を学んでいく。	収納棚から自由に手にとって遊ぶ、友人と協力して遊ぶものや、親、祖父母などから手ほどきをうけて遊ぶものなどを用意	こま めんこ けんだま よーよー だるま落とし おはじき ビー玉 ばたばた かみふうせん 万華鏡 おてだま
和楽器 (能楽器)	ならす ～日本の 音～	日常では触れる機会がないであろう和楽器を実際に手にとり、音を出すことによって、伝統音楽や芸能に触れる糸口を発見する。	収納棚から自由に手にとり、鳴らす「打ちもの」と「吹きもの」を用意する。 能楽の囃子方の楽器を中心とする。	締め太鼓 小鼓 大鼓 能管

テーマ	項目	主旨	展開	ツール
手の技	むすぶ・ つつむ	伝統的な結ぶ、包む技術を体験することによって、先人の知恵や、器用さを発見する。 今後の日常生活にも活かす。	収納棚から実際に包まれたサンプルを手にとって眺める。ひきだしから包み方のキャプション、風呂敷、水引などを取り出して、自由に包んだり、結んだりしてみる。	水引 笹巻き おにぎり 経木 風呂敷 しみもち やさい わら すいか びん
	織る・あむ ～糸から 布へ～	一本の糸から一枚の布が生まれる驚きを実際に体験することで、先人の知恵と技術を改めて学ぶ。あわせて、米織りや古代布、紅花などのディスプレイも考えていく。	収納棚から糸や布のサンプルを手にとってみる。 実際に織機や編む道具を使って my織物をつくることもできる。	竹組あみ 簡単おりき

ミュージアムスクール

博物館の持つ教育的な要素の中で最も特徴的なことは、「実物資料を持っている」ことである。それらを複合的に、学術的につなぎ、学校だけでは味わうことのできない驚きや感動を与えていく。

- 博物館が持つプログラムを授業で利用してもらう。
- 授業の中で博物館資料や施設を利用してもらう。

利用年月日	学 校 名	学年	教科	人数	内 容
11月13日	米 沢 市 立 第 四 中 学 校	3 年	美 術	38	洛中洛外図の鑑賞
11月14日	米 沢 市 立 第 四 中 学 校	3 年	美 術	40	洛中洛外図の鑑賞
11月15日	米 沢 市 立 第 四 中 学 校	3 年	美 術	38	洛中洛外図の鑑賞
11月16日	米 沢 市 立 第 四 中 学 校	3 年	美 術	40	洛中洛外図の鑑賞



講演会

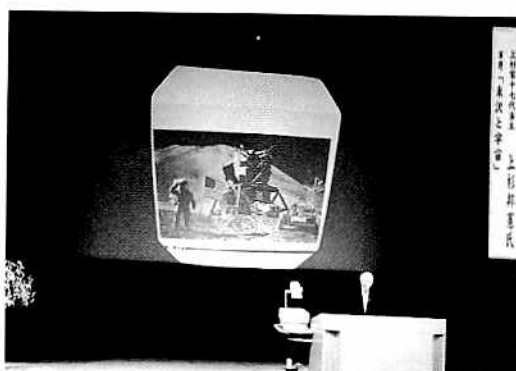
■講演会「米沢と宇宙」

日 時：2001年10月27日（土）14:00～15:30

会 場：伝国の杜 置賜文化ホール

講 師：上杉邦憲氏（上杉家十七代当主）

参加人数：約150名



米沢の思い出と現在携わっている宇宙開発の仕事について、スライドを交えながら文部科学省宇宙科学研究所教授で工学博士である上杉家十七代当主による講演。

博物館実習

当館では、各大学の学芸員資格取得者のため、博物館実習生を受け入れている。
今年度は10大学15名の実習生を受け入れ、3班にわけて下記のとおり行なった。
なお、実習は旧館で行なわれた。

実習生

A班

柳 隆文（専修大学）
宮坂千鶴子（立正大学）
高橋 幸子（共立女子大学）
小松 恵（米沢女子短期大学）
西部カレン（米沢女子短期大学）

B班

藤崎 綾（大東文化大学）
千金良祥子（東北学院大学）
小林 覚（中央大学）
杉山めぐみ（米沢女子短期大学）
弥次金菜見（米沢女子短期大学）

C班

宮嶋 章子（新潟大学）
皆川 深雪（長岡造形大学）
熊澤 聡子（東京学芸大学）
染谷 裕子（米沢女子短期大学）

実習の記録

	午前（9:00～12:00）	午後（13:00～16:30）
7.25(水)	館長あいさつ 博物館資料の取扱について （古文書：A、絵画：B、 工芸：C）	博物館図書の整理
7.26(木)	博物館運営について （展覧会企画シミュレーション）	博物館図書の整理 博物館運営に関する 資料整理
7.27(金)	博物館資料の取扱について （絵画・工芸：A、工芸・ 古文書：B、古文書・ 絵画：C）	博物館運営に関する 資料整理
7.30(月)	資料カード作成 （古文書・絵画・書籍等）	資料カード作成 （古文書・絵画・書籍等）
7.31(火)	博物館運営について （展覧会企画の総括）	総括（展覧会企画課題 について）古文書解説 のまとめ

5. 調 査

■調査員による調査

博物館に必要な資料の収集を適正かつ円滑に進めること、また展示、研究等に関する基礎データを得ることを目的として平成12年に引き続き博物館資料調査員を依頼した。任期は1年。

(敬称略)

氏 名	分 野	備 考
遠 藤 綺一郎	書跡・古文書	山形県立米沢女子短期大学名誉教授
小 野 榮	郷土史	郷土史家・元米沢市史編纂専門員
佐 藤 繁	美術	米沢市立第三中学校美術教諭
武 田 正	民俗	山形短期大学教授
三 上 喜 孝	古代史	山形県立米沢女子短期大学講師
我 妻 寿 彦	美術	財団法人山形美術館学芸員

■絵画・美術工芸に関する調査

12年度に引き続き、置賜出身の作家およびその作品について、県内外の情報を収集、随時報告書にて提出してもらった。

また、13年度開催展覧会に関わる資料を報告してもらった。

	件名	報告者	処理	今後の方針
1	郷土画家について (吉池青園・土田文雄・浜田浜雄 ・菅原白龍)	我妻 寿彦 氏	置賜地方の 近現代画家に 登録	一部13年度 展覧会準備・ 14年度受入 準備
2	作家資料(土田文雄・浜田浜雄 ・遠藤俊弘・林久雄・鈴木豊子 鈴木浩明・寺島玉史・ 山形デザインネットワーク・ コンノミユキ・緑光会)	佐藤 繁 氏	置賜地方の 近現代画家に 登録	一部13年度 展覧会準備・ 14年度受入 準備
3	鈴木里香(絵本作家)資料 および米沢工業高等学校所蔵リスト	佐藤 繁 氏	置賜地方の 現代作家 および学校 所在リストに 登録	

■館蔵資料の調査

平成9年度寄贈資料	新屋家文書 (目録作成)
平成9年度寄贈資料	目賀多家文書 (解説)
平成12年度寄贈資料	栗林家文書 (目録作成)
平成13年度購入資料	吉川文書 (目録作成、一部解説)

(指導者：遠藤綺一郎氏、佐藤美保子氏)

■資料の修理

接收刀剣の修理 3口

脇差	No.1981	銘 加藤長運斎綱俊／文政十一年八月日	刃長50.5 c m (濤瀾刃)
脇差	No.1985	銘 長運斎綱俊／子孫栄久	刃長35.2 c m (直刃)
脇差	No.2114	銘 加藤助太郎綱英 父国秀彫／文化五年四月	刃長38.2 c m (濤瀾刃)

■資料管理データベース登録

資料管理データベースの構築にともない、「資料分類・整理マニュアル 1999年改正」内の資料分類表を下記のとおり変更する。

新しい資料の分類は、大分類、小分類の2項目で分類する。

新しい資料分類



館蔵ポジフィルムについてデータベース化し、分類整理をおこなった。(掲載処理を含む)
5,138点の基本データの入力、ファイリング終了(掲載処理数1,008件)

新博物館で運用する収蔵品管理データベースに取り込む基本データの入力
8月には蓄積データを新システムにコンバート開始

図書分類・整理作業

新博物館情報ライブラリーでの活用に向けて未受け入れ図書の受け入れと開架書籍の選定新規受け入れ
作業

基本書誌情報データベース入力

ラベリング

件名標目付与

■ 資料受入

新収蔵品受け入れ作業

購入 352点 寄贈 936点

平成13年度 受入資料

受入年月日	受入番号	分類	資料名	作者	件数	員数	受入種別
2001.4.23	2001-001	絵画	井の頭公園	福王寺法林	1	1面	寄贈
2001.5.11	2001-002-1~45	歴史資料	近代絵葉書		1	45枚	寄贈
2001.5.7	2001-003-1~2	歴史資料	ポストカードアルバム		1	2冊	寄贈
2001.5.31	2001-004	生活資料	心地流竹刀		1	1振	寄贈
2001.5.31	2001-005	生活資料	心流木刀		1	1振	寄贈
2001.7.9	2001-007-001~226	生活資料	佐藤屋製菓資料		1	226点	寄贈
2001.7.17	2001-008-1~4	生活資料	花木蒔絵煙草盆(一式)		1	4点	寄贈
2001.8.31	2001-009~015	歴史資料	服役従軍年併傷痍恩給計算書他		1	7点	寄贈
2001.9.20	2001-010	絵画	置賜文化ホール能舞台鏡板下絵	福王寺法林	1	1面	寄贈
2001.10.19	2001-011~016	絵画	民族博物館-霊他	遠藤賢太郎	1	6面	寄贈
2001.10.25	2001-017	書跡	上杉憲章書		1	1幅	寄贈
2001.9.28	2001-018	彫刻	怒りと悲しみと(ブロンズ)	桜井 祐一	1	1体	寄贈
2001.11.13	2001-019	絵画	上杉神社雪景	佐竹泰次郎	1	1面	寄贈
2001.11.8	2001-020	彫刻	上杉鷹山像(ブロンズ)	阿部 誠	1	1体	寄贈
2001.12.27	2001-021	絵画	停車場他3点	吉池 青園	1	4面	寄贈
2001.12.28	2001-022	生活資料	笹野一刀彫	高山 幸吉	1	1点	寄贈
2002.1.11	2001-023	歴史資料	米沢藩式目写(文化十年五月二七日)		1	1点	寄贈
2001.7.11	2001-024~345	歴史資料	長尾房長書状他			322点	購入
2001.7.16	2001-346	絵画	山水図屏風(表)	目賀多信斎	1	六曲一隻	購入
		書跡	書貼交屏風(裏)	三井 親和	1		
2001.7.16	2001-347-1~2	絵画	商山四皓図・竹林七賢図屏風	目賀多守如	1	六曲一隻	購入
2001.7.16	2001-348	絵画	布袋図	目賀多雲川	1	1幅	購入
2001.7.16	2001-349	書跡	詩歌色紙	伝尊圓親王	1	1冊	購入
	2001-350	刀剣	刀 銘出羽住義正作		1	1振	購入
	2001-351	絵画	栗子新道画図		1	1枚	購入
	2001-352~353	生活資料	鉛銭		1	2枚	購入
2001.11.9	2001-354	工芸	萌黄糸素懸威二枚胴具足		1	1式	購入
2001.11.9	2001-355	工芸	金梨子地龍竹雀紋蒔絵刀筒		1	1点	購入
2002.3.7	2001-356-1~2	絵画	雲川「名月図」・東溪「吉野桜図」		1	双幅	購入
2002.3.4	2001-357-1	文献	大石右衛門尉宛上杉謙信書状		1	1幅	購入
2002.3.4	2001-358-2	書跡	上杉鷹山和歌		1	1幅	購入

2002.3.4	2001-359-3	書 跡	荏戸善政書		1	1幅	購 入
2002.3.25	2001-367-1~2	絵 画	寒山拾得	下條 桂谷	1	1幅	購 入
2002.3.19	2001-368	工 芸	梨子地竹雀・桐紋金具糸巻太刀の鞘		1	1点	購 入
2002.3.19	2001-369	工 芸	黒塗笹雀文蒔絵合口拵		1	1点	購 入
2002.3.19	2001-370	工 芸	黒塗打刀拵の鞘		1	1点	購 入
2002.3.19	2001-371	工 芸	黒塗脇指拵の鞘		1	1点	購 入
2002.3.19	2001-372	工 芸	布巻柄（塗り柄の下地）		1	1点	購 入
2002.3.19	2001-373	工 芸	竹に雀紋垂緒		1	1点	購 入
2002.3.19	2001-374	工 芸	竹に雀紋平緒		1	1点	購 入
2002.3.22	2001-375	絵 画	夏山深遠図	下條 桂谷	1	1幅	購 入
2002.3.22	2001-376	絵 画	酔李白図	下條 桂谷	1	1幅	購 入
2002.3.4	2001-377	絵 画	湖畔暮雪	本間 国生	1	1幅	購 入
2002.3.4	2001-378	絵 画	能画	本間 国生	1	1幅	購 入
2002.3.26	2001-379	絵 画	百合花	椿 貞雄	1	1面	購 入
2002.3.28	2001-380	絵 画	孫二人	椿 貞雄	1	1面	購 入
					46	656	

収蔵資料数（平成13年度）

大 分 類	平成13年度収蔵資料		合 計	
	件 数	点 数	件 数	点 数
歴 史 資 料	6	378	5,714	12,087
書 跡	4	4	206	242
工 芸	10	10	98	278
刀 剣				
絵 画	6	27	455	642
彫 刻	2	2	20	231
生 活 資 料	6	235	694	1,605
合 計	34	656	7,187	15,085

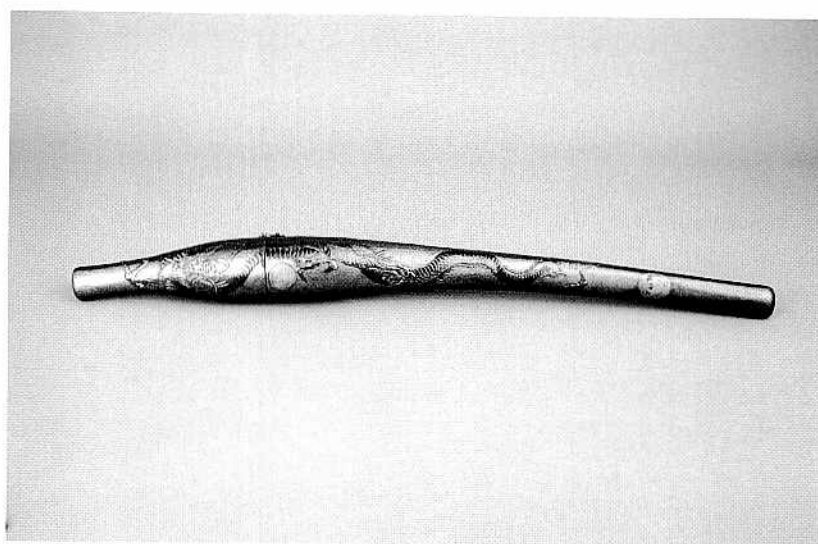
※分類改変による調整のため、工芸、刀剣はあわせた数字となっている



No.2001-348
布袋図 目賀多雲川



No.2001-380
孫二人 椿貞雄



No.2001-355
金梨子地龍竹雀紋蒔絵刀筒

■ 平成13年度 受入図書（個人よりの寄贈分）

分類番号	書 名	著 者 名
720	女流画家協会 第55回展	女流画家協会
720	国展 絵画部 第73回	国画会絵画部
206	東京大学史料編纂所要覧 2001	東京大学史料編纂所
K759	相良土人形 米沢	河童洞
K759	創作こけし 一雪	河童洞
	竹俣氏と其の居城	川東村教育會
K289	直江兼続のすべて	花ヶ前盛明
K289	図説 上杉謙信と上杉鷹山	花ヶ前盛明
K289	まんが 上杉謙信ものがたり	加藤章
S214.1	頸城文化 50号	上越郷土研究会
214.1	にいがた歴史紀行14	花ヶ崎盛明
K289	夏戸城の町 現代へのメッセージ	吉原賢二
K376	米沢興譲館同窓会 会員名簿 平成13年度	米沢興譲館同窓会
289	木村徳衛小傳	木村益子
K289	直江兼続傳	木村徳衛
721	会津に遺る 風俗図屏風	会津に遺る 風俗図屏風展実行委員会
S214.1	魚沼 第19号	上田史談会事務局
K706	米沢に桜井祐一彫刻美術館を	桜井祐一彫刻美術館建設を進める会
K706	米沢アンデパンダン展記念画集	米沢アンデパンダン展記念画集編集委員会
486	宮城県のトリカ	保谷忠良
379	元禄繚乱の山形学	山形県生涯学習人材育成機構
K289	闇はわれを阻まず	鈴木由紀子
K913	義にあらず	鈴木由紀子
K288.3	医道一筋 有壁家400年の足跡	有壁秀夫
K709	法音寺宝物展	法音寺
756	仙台の鐺	渡辺尚
K289	異端の変革者 上杉鷹山	加来耕三
K594	糸からの はじまり	鈴木豊子
K726	ゆきどうろう	フランス・ウィーブ (Francine Wiebe)
K726	刊刊の1にち	コン/ユキミ
K726	刊刊のクリスマス	コン/ユキミ
	家庭画報 2002年2月号 通巻第528号 第45巻 第2号	世界文化社
K748	高木忠吉作品集	高木とよ
S380	山形民俗 第15	山形県民俗研究協議会
K916	ある若き海軍士官の半生	近厚
K270	鷹山公御隠殿 餐霞館と三の丸	大乗寺良一
K289	漢学者 渋井太室 付録2	平井辰雄
702	東北の原像	濱田直嗣
069.36	東京国立博物館図版目録 日本書跡篇(和様1) 平成元年	東京国立博物館
069.36	東京国立博物館図版目録 日本書跡篇(僧侶筆跡・唐様) 平成7年	東京国立博物館
K289	資料・米沢時代の吉本隆明について その五	斎藤清一
S486	FUTAO No.36-38	英裕人
S406	東洋大学紀要 自然科学篇 第45号 平成13年3月	東洋大学自然科学研究室

分類番号	書 名	著 者 名
KS374	あづまね 第18号 2000年12月	九里学園教育研究所
KS373	米沢有為会々誌 復刊 第51号 平成13年6月	小関
K916	公舎物語	滝沢美恵子
K287	先人 大いに語る 架空座談会	松野良寅
K721	福王寺一彦展	
	美術資料 1～3年用(教師用)	山形県造形教育連盟中学校部会
	ぞうけい 13	米沢市中学校美術教育研究会
K289	鷹山公偉蹟録	甘糟繼成
813	廣辭林	
K470	みちのく 山形の植物入門	石栗正人
K288	上杉家御年譜1-24	米沢温故会
	上杉氏系図	上杉虎雄
K723	土田文雄画集 1974	山形美術博物館
773	大塚亮治の創作面	大塚亮治
708	原色日本の美術1-32	斎藤忠 ほか
713	木彫巨匠展	三越
S702	日本の美術 第1-14号	東京国立博物館
S702	日本の美術 第16-23号	東京国立博物館
S702	日本の美術 第25-45号	東京国立博物館
S702	日本の美術 第46号	文化庁
S702	日本の美術 第48号	文化庁
S702	日本の美術 第50-51号	文化庁
S702	日本の美術 第53-55号	文化庁
S702	日本の美術 第57-60号	文化庁
S702	日本の美術 第62号	文化庁
S702	日本の美術 第64号	文化庁
S702	日本の美術 第66-68号	文化庁
S702	日本の美術 第70-71号	文化庁
S702	日本の美術 第76号	文化庁
S702	日本の美術 第78-80号	文化庁
S702	日本の美術 第89号	文化庁
S702	日本の美術 第101-188号	文化庁
S702	日本の美術 第190-419号	文化庁
S702	日本の美術 第7号	東京国立博物館
S702	日本の美術 第26号	東京国立博物館
S702	日本の美術 第79号	文化庁
S702	日本の美術 第349号	文化庁
K756	置賜米沢の刀工と金工師たち	長岡正
391	一兵士の戦争体験	小田敦巳
391	恩愛をいただいて	小田敦巳
788	競う	仙台市博物館
K289	鷹山公世紀 全	池田成章
K474	清水大典冬虫夏草図複製 310点	清水大典

■ 資料貸出・特別利用

実物資料

番号	利 用 日	利 用 者	利用区分	利用目的	利用資料・点数
1	平成13年 12月19日～20日	国立歴史民俗博物館 歴史研究部	熟覧・撮影	中世文書研究および 論文執筆のための原本調査	上杉家文書10点・ 上杉文書3点
2	平成13年11月22日	株式会社 プレック研究所	熟覧	「山形県歴史の道総合計画」 作成業務のための調査	上杉文書10点
3		愛知県史編さん室	撮影	「愛知県史」編纂資料とするため	上杉家文書15点・ 上杉文書34点
4		愛知県史編さん室	複写	「愛知県史」編纂資料とするため	上杉家文書15点・ 上杉文書34点(写真)
5	平成13年12月26日	和歌山県立博物館	熟覧	川中島合戦図屏風に関する 資料調査	上杉文書4点
6	平成14年1月9日～10日	株式会社 プレック研究所	撮影	「山形県歴史の道総合計画」 作成業務のため	上杉文書10点
7	平成14年1月19日	新潟県立文書館	熟覧	中世越後の揚北衆杉原氏および 杉原謙氏の研究のため	杉原家文書59点
8	平成14年2月20日	滋賀県安土城郭調査研究所	熟覧	織豊期城郭基礎調査 (県外織田信長文書調査)	上杉家文書28点
9	平成14年2月20日	滋賀県安土城考古資料館	熟覧	織田信長関係資料調査	上杉家文書28点
10		福島県歴史資料館	複写	陸奥国絵図の研究のため	上杉文書2点(写真)
11		石黒喜一	複写	地区の歴史を記録保存するため	山上邨片子新道敷遺 地字限絵図(写真)
12	平成14年3月5日	武生市教育委員会	熟覧・撮影	「武生市史」編纂のための 資料調査・収集	上杉家文書2点
13	平成14年3月14日	渡辺理絵	熟覧・撮影	史料調査	上杉孝久氏 寄贈文書7点
14	平成14年4月3日	千葉大学文学部史学科	熟覧	米沢藩の記録史料研究のため	上杉文書74点

写真資料 (他機関、出版社などによる印刷物、メディアに掲載されたもの)

資 料 名	件 数
洛中洛外図	154
上杉家文書	22
上杉文書	6
越後国郡絵図	30
上杉謙信像(鳥谷幡山)	3
上杉鷹山像(左近司惟春)	2
上杉鷹山像(上杉熊松)	2
直江兼統像	3

資 料 名	件 数
黒井忠寄像	2
蒔戸善政像	1
竹俣当綱像	2
興譲館之図（窪島政男）	2
かてもの版本	2
愛宕山雨乞いの図（狩野文信）	2
初入部の図（狩野文信）	2
七家騒動の図（狩野文信）	2
敬師郊迎の図（狩野文信）	2
黒井堰落成の図（狩野文信）	3
養蚕の図（狩野文信）	2
機織の図（狩野文信）	2
隠退の図（狩野文信）	2
上杉家歴代藩主像	2
厩図	3
大威徳明王像	1
橘松竹葵紋蒔絵挟箱	1
橘松竹葵紋蒔絵鏡箱	1
橘松竹南天葵紋鏡	1
塩鮭（切身のある）（椿貞雄）	1
童女像（毛糸の肩掛けをした菊子）（椿貞雄）	1
菊子遊戯之図（椿貞雄）	1
ネグリジェの女（桜井祐一）	1
壺（桜井祐一）	1
夏の花（土田文雄）	1
雨後の山（本間国生）	1
晩秋民家（黒沢梧郎）	1
高砂族の舞（福王寺法林）	1
春堤（遠藤桑珠）	2
知床（遠藤桑珠）	1
伊東忠太像	1
行屋道具	1
伝国の杜イメージイラスト	4
合 計	275

管理・運営

(1) 利用状況

平成13年度入館者統計

常設展（月別）

（単位：名）

月	一般	高大生	小中生	合計
9月	4,676	257	182	5,115
10月	64,787	883	12,089	77,759
11月	11,935	275	825	13,035
12月	2,970	143	100	3,213
1月	2,800	178	117	3,095
2月	3,995	170	155	4,320
3月	4,032	246	283	4,561
合計	95,195	2,152	13,751	111,098

企画展（月別）

（単位：名）

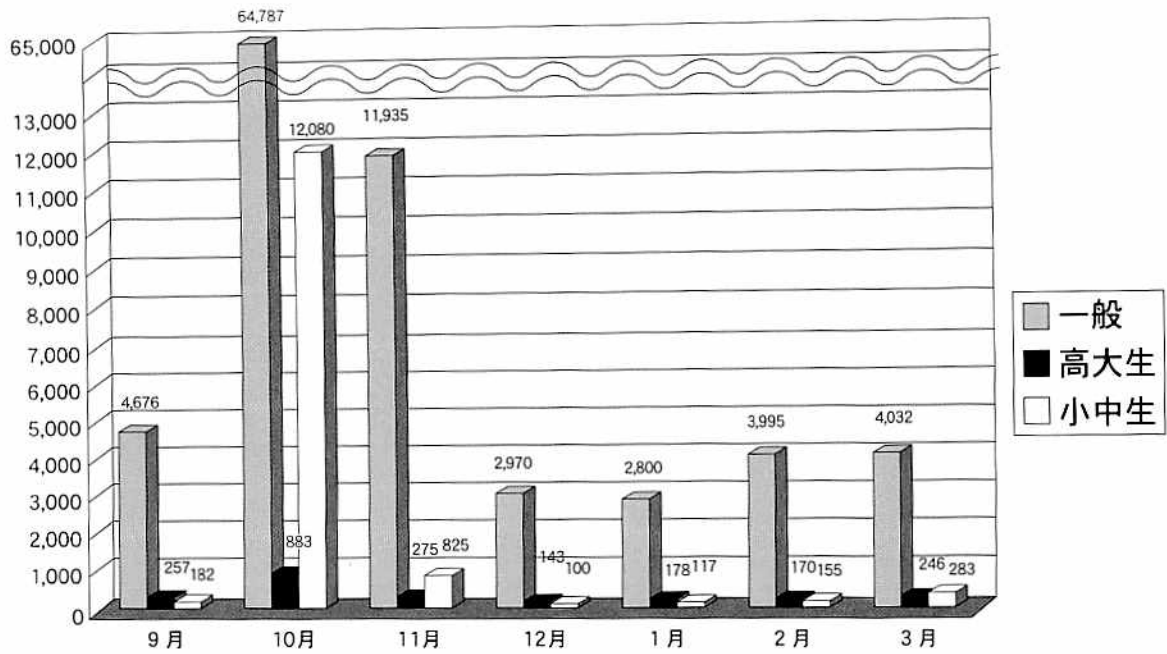
月	一般	高大生	小中生	合計
9月	4,439	165	223	4,827
10月	63,245	835	11,767	75,847
11月	10,002	241	482	10,725
12月	2,241	129	55	2,425
1月	2,428	66	80	2,574
2月	2,870	114	91	3,075
3月	2,251	134	143	2,528
合計	87,476	1,684	12,841	102,001

企画展別入場者

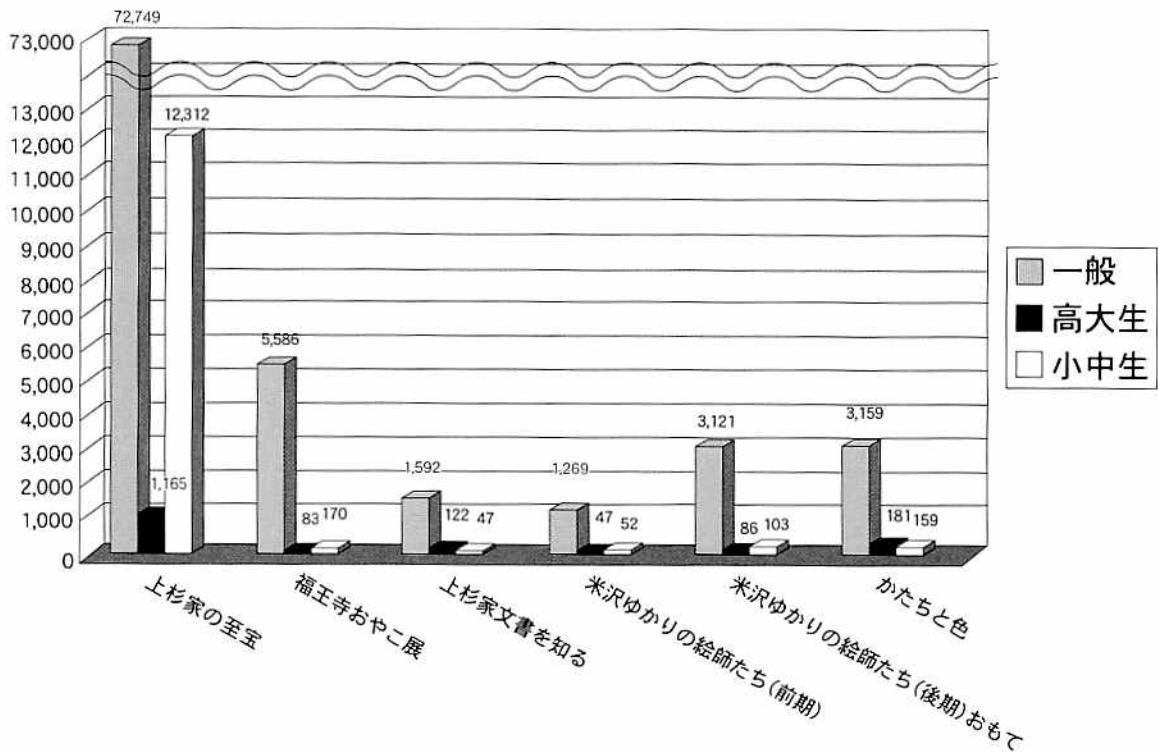
（単位：名）

企画展名・会期	一般	高大生	小中生	合計
開館記念特別展 上杉家の至宝 平成13年9月29日～11月4日（37日間）	72,749	1,165	12,310	86,224
青の継承－福王寺法林・一彦おやこ展 平成13年11月10日～12月2日（20日間）	5,586	83	170	5,839
国宝指定記念 上杉家文書を知る 平成13年12月8日～12月28日（18日間）	1,592	122	47	1,761
米沢ゆかりの絵師たち（前期） 平成14年1月4日～1月14日（10日間）	1,269	47	52	1,368
米沢ゆかりの絵師たち（後期）・おもて－大塚亮治の面 平成14年1月19日～2月11日（21日間）	3,121	86	103	3,310
かたちと色－桜井祐一没後20年・土田文雄生誕100年 平成14年2月16日～3月31日（38日間）	3,159	181	159	3,499
合計	87,476	1,684	12,841	102,001

平成13年度常設展入館者（月別）



平成13年度企画展入場者（企画展別）



(2) 発行書籍

『開館記念特別展 上杉家の至宝』	80頁	平成13年9月	3,000冊発行
『国宝上杉本洛中洛外図屏風』	32頁	平成13年9月	10,000冊発行
『青の継承－福王寺法林・一彦おやこ展』	32頁	平成13年11月	1,000冊発行
『おもて－大塚亮治の面－』	28頁	平成14年1月	1,000冊発行
『かたちと色－桜井祐一没後20年・土田文雄生誕100年』	64頁	平成14年2月	1,000冊発行
「伝国の杜だより VOL.1」	8頁	平成13年9月	5,000冊発行
「伝国の杜だより VOL.2」	8頁	平成14年3月	5,000冊発行

(3) ミュージアムショップ

展示などで味わった感動を形として持ち帰っていただくとともに、歴史や美術への興味を深めてもらうことのできるオリジナルグッズの開発に努めた。

米沢市上杉博物館ミュージアムグッズ

商品名	種類等	商品名	種類等
一筆箋	神輿の渡御（洛中洛外図）	Tシャツ	花押（S）
	五条橋と鴨川（洛中洛外図）		花押（M）
	内裏の正月風景（洛中洛外図）		花押（L）
	こどもたちの正月風景	ぐいのみ	鉄線花模様（紫×アンバー）
	上杉鷹山像（左近司惟春）		鉄線花模様（緑×アンバー）
	高砂族の舞（福王寺法林）		鉄線花模様（紫×ブルー）
	月映る頃（福王寺一彦）	巾着	椿夏子 染布（赤・小）
	金剛流狂言十八番図屏風		椿夏子 染布（紺と黄・小）
一筆箋用封筒	（ブルー）		椿夏子 染布（青・小）
	（アイボリー）		椿夏子 染布（赤・大）
	（ホワイイト）		椿夏子 染布（紺と黄・大）
レターセット	上杉家文書（グリーン）		椿夏子 染布（青・大）
	上杉家文書（茶）	コースター	太布
ギフトカード	福王寺法林・一彦		山からむし
ポストカード	高砂族の舞（福王寺法林）		からむし（モスグリーン）
	月映る頃（福王寺一彦）		からむし（茶）
	夏の花（土田文雄）		本草木乱れ縞
	菊子像（椿 貞雄）		からむし布紅と藍 無双
	睡蓮（椿 貞雄）	シェル	からむし紅無地
	壺（桜井祐一）		ぜんまい白無地
	神輿の渡御（洛中洛外図）		ぜんまい織紅無地
	正月の内裏（洛中洛外図）		からむし小紋
	五条橋と鴨川（洛中洛外図）		絹
	歳末の小川通り（洛中洛外図）	コサージュ	からむし布（中）

商品名	種類等	商品名	種類等
ポストカード	上杉鷹山像	コサージュ	からむし布（小）
	謙信・景勝・直江上杉家文書）		からむし布（小） 藍
	川中島合戦図屏風 謙信・信玄		からむし布（小） 紅
	川中島合戦図屏風 謙信・義信		山からむし（大）
メモ帳	本間国生淡彩		山からむし（中）
	花押		草布（大）
	厩図屏風		草布（中）
シール	花押		本草木乱れ縞布（大）
ハンカチ	椿夏子 染布（エンジ）		本草木乱れ縞布（中）
	椿夏子 染布（ムラサキ）		ぜんまい布（大）
	椿夏子 染布（グレー）		ぜんまい布（中）
ミニタオル	つらつら椿（サーモンピンク）		ぜんまい布（小）
	つらつら椿（パールブルー）	玩具	投げ独楽
	つらつら椿（ラベンダー）		糸つり独楽
	つらつら椿（ネイビー）		三段独楽
小風呂敷	海の詩（紺）		お手玉セット
	海の詩（エンジ）		ビー玉セット
手拭い	花押（ピンク）		めんこセット
	花押（グリーン）		けん玉
	なせばなる（赤）		おはじきセット
	なせばなる（紺）		



ミニタオル



ぐいのみ



ミュージアム ショップ

条 例

米沢市博物館の設置及び管理に関する条例

昭和63年3月28日

条例第17号

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条の規定に基づき、教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を設置する。

(平13条例9・全改)

(名称及び位置)

第2条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

- (1) 名称 米沢市上杉博物館
- (2) 位置 米沢市丸の内一丁目2番1号

(平13条例9・一部改正)

(事業)

第3条 米沢市上杉博物館(以下「博物館」という。)は、次の事業を行う。

- (1) 実物、複製、文献、写真等の博物館資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料を当該博物館外で展示すること。
- (3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行うこと。
- (4) 博物館資料に関する専門的及び技術的な調査研究を行うこと。
- (5) 博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究を行うこと。
- (6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- (8) 市内又はその周辺にある文化財保護法(昭和25年法律第214号)の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
- (9) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
- (10) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、及びその活動を援助すること。

(平13条例9・一部改正)

(名誉館長)

第3条の2 博物館に名誉館長を置くことができる。

2 名誉館長は、非常勤とする。

(平元条例61・追加)

(職員)

第4条 博物館に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(入館料)

第5条 常設展(主として常設展示室において行う展示をいう。以下同じ。)を観覧しようとする者は別表に定める常設展入館料を、特別展(期間を定めて特別に行う展示をいう。以下同じ。)を観覧しようとする者は1,300円の範囲内において市長が定める額の特別展入館料を納付しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、市長は、常設展と特別展とを併せて観覧しようとする者及び市長が別に

定める施設と博物館とを併せて観覧しようとする者が納付すべき常設展入館料の額を、別表に定める額から、同表に定める額に10分の5を乗じて得た額以内の額で別に定める額を差し引いた額とすることができる。

(平13条例9・全改)

(入館料の減免)

第6条 市長は、公益又は公用上特に必要があると認めるときは、入館料を減額し、又は免除することができる。

(使用の許可)

第7条 博物館の会議室(以下「会議室」という。)を使用しようとする者は、米沢市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の許可を受けなければならない。

2 教育委員会は、前項に規定する許可に当たっては、博物館の管理上必要な条件を付することができる。

(平13条例9・一部改正)

(使用の不許可)

第8条 教育委員会は、その使用が次の各号の一に該当するときは、その使用を許可してはならない。

(1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認めるとき。

(2) 施設又は備付けの物件(以下「施設等」という。)を汚損し、若しくはき損し、又は滅失するおそれがあると認めるとき。

(3) その他管理上適当でないと認めるとき。

(使用権の譲渡等の禁止)

第9条 第7条第1項の規定による許可を受けた者(以下「使用者」という。)は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。

(使用の条件の変更、停止及び許可の取消し)

第10条 教育委員会は、使用者が次の各号の一に該当するときは、又は施設等の管理上特に必要があると認めるときは、当該許可に付した条件を変更し、若しくは使用を停止し、又は当該許可を取り消すことができる。

(1) 偽りの申請により使用の許可を受けたとき。

(2) 第7条第2項の条件に違反したとき。

(3) 前条の規定に違反したとき。

2 教育委員会は、使用者が前項の規定による処分を受け、これによって損失を受けることがあっても、その補償の責めを負わない。

(使用料)

第11条 会議室を使用しようとする者は、会議室1室につき1時間当たり500円の使用料を前納しなければならない。この場合において、冷房又は暖房を使用しようとするときは、冷暖房料として1時間当たり200円を加算し、納付しなければならない。

(平13条例9・全改)

(使用料の減免)

第12条 市長は、公益又は公用上特に必要があると認めるときは、使用料を減額し、又は免除することができる。

(使用料の還付)

第13条 既納の使用料は、還付しない。ただし、市長は、特別の事由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。

(原状回復義務)

第14条 使用者は、その使用を終わったとき、若しくは第10条第1項の規定により使用を停止され、又は許可を取り消されたときは、使用した施設等を直ちに原状に回復しなければならない。

(損害賠償等)

第15条 博物館が展示する博物館資料を観覧する者及び使用者は、その責めに帰すべき事由により、施設等を汚損し、若しくはき損し、又は滅失したときは、市長の指示するところにより当該施設等を原状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。

(博物館協議会)

第16条 博物館に米沢市上杉博物館協議会を置く。

2 委員の定数は、15名とする。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(平13条例9・一部改正)

(管理の委託)

第17条 博物館の設置の目的を効果的に達成するため、その管理を次の団体に委託する。

(1) 住所 米沢市丸の内一丁目2番1号

(2) 名称 財団法人米沢上杉文化振興財団

2 前項の規定により委託する管理事務の内容は、次に掲げる事項とする。

(1) 博物館の管理に関すること。

(2) 博物館資料の展示、整理及び保存並びに調査研究その他博物館において実施する事業に関すること。

(3) その他市長が必要と認める事項に関すること。

(平2条例14・全改、平13条例9・一部改正)

(委任)

第18条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、昭和63年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行前に廃止前の米沢市社会教育等施設の設置及び管理に関する条例(昭和50年条例第29号)の相当規定に基づきなされた手続、処分その他の行為は、この条例の規定に基づきなされたものとみなす。

附 則(平成元年3月29日条例第24号)

(施行期日)

1 この条例は、平成元年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例による改正後の米沢市博物館の設置及び管理に関する条例別表第2の規定は、この条例の施行の日以後において許可する博物館の使用に係る使用料について適用し、同日前において許可した博物館の使用に係る使用料については、なお従前の例による。

附 則(平成元年9月27日条例第61号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成2年3月31日条例第14号)

この条例の規定は、次の各号に掲げる区分に従い、それぞれ当該各号に定める日から施行する。

(1) 第1条の規定 公布の日

(2) 第2条の規定 財団法人米沢上杉文化振興財団の設立について山形県教育委員会の許可のあつた日

(平成2年3月22日)の属する月の翌月の初日

附 則(平成5年3月30日条例第7号)

この条例は、平成5年6月1日から施行する。

附 則(平成9年3月31日条例第24号)

(施行期日)

1 この条例は、平成9年6月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例による改正後の米沢市博物館の設置及び管理に関する条例の規定は、この条例の施行の日以後において許可する博物館の使用に係る使用料について適用し、同日前において許可した博物館の使用に係る使用料については、なお従前の例による。

附 則(平成13年3月28日条例第9号)

(施行期日)

1 この条例は、平成13年9月29日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際、現に改正前の米沢市博物館の設置及び管理に関する条例の規定により任命された米沢市立上杉博物館協議会の委員は、改正後の米沢市博物館の設置及び管理に関する条例の規定により任命された米沢市上杉博物館協議会の委員とみなす。

別表(第5条関係)

(平13条例9・全改)

常設展入館料

区 分		金 額
個 人	一般	400円
	高校生・大学生	200円
	小学生・中学生	100円
団 体	一般	320円
	高校生・大学生	140円
	小学生・中学生	60円

備考

- 1 「団体」とは、一の団体が20人以上の者で構成される場合に当該団体に属する者をいい、「個人」とは、それ以外の者をいう。
- 2 「一般」とは、18歳以上の者(次項に規定する者を除く。)をいう。
- 3 「高校生・大学生」とは、学校教育法(昭和22年法律第26号)に規定する大学及び高等学校に在学する者その他これらに準ずる者として市長が認める者をいう。
- 4 「小学生・中学生」とは、学校教育法に規定する小学校及び中学校に在学する者その他これらに準ずる者として市長が認める者をいう。

米沢市博物館の設置及び管理に関する条例施行規則

昭和63年3月28日

教委規則第6号

(趣旨)

第1条 この規則は、米沢市博物館の設置及び管理に関する条例(昭和63年条例第17号。以下「条例」という。)第18条の規定に基づき、米沢市上杉博物館(以下「博物館」という。)の管理及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(平13教委規則3・一部改正)

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、米沢市教育委員会教育長(以下「教育長」という。)が必要と認めるときは、これを変更することができる。

(1) 月曜日(その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第3条に規定する休日(以下「休日」という。)であるときは、その日後においてその日に最も近い休日でない日)

(2) 12月29日から翌年1月3日まで

(3) 館内整理日

(平元教委規則4・平13教委規則3・一部改正)

(観覧時間及び使用時間)

第3条 博物館の観覧時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育長が必要と認めるときは、これを変更することができる。

2 博物館の会議室の使用時間は、午前9時から午後10時までとする。

(平13教委規則3・一部改正)

(観覧券)

第4条 博物館が展示する博物館資料を観覧しようとする者は、入館料の納入の際に観覧券(様式第1号)又は団体観覧券(様式第2号)の交付を受けなければならない。

(使用許可の申請)

第5条 条例第7条第1項の規定により博物館の会議室の使用の許可を受けようとする者(以下「申請者」という。)は、米沢市上杉博物館使用許可申請書(様式第3号)を教育長に提出しなければならない。

(平13教委規則3・一部改正)

(使用許可書の交付)

第6条 教育長は、条例第7条第1項の規定による使用の許可をしたときは、米沢市上杉博物館使用許可書(様式第4号)を当該申請者に交付するものとする。

(平13教委規則3・一部改正)

(使用不許可の通知)

第7条 教育長は、条例第8条の規定により使用の許可をしないときは、その旨を当該申請者に通知しなければならない。

(許可内容の変更及び取消し)

第8条 博物館の会議室の使用の許可を受けた者(以下「使用者」という。)は、当該許可に係る内容を変更し、又は取消しようとするときは、米沢市上杉博物館使用変更(取消)許可申請書(様式第5号)を使用日前5日までに、教育長に提出しなければならない。

2 教育長は、前項に規定する申請を許可したときは、米沢市上杉博物館使用変更(取消)許可書(様式第6号)を当該使用者に交付するものとする。

(平13教委規則3・一部改正)

(許可書の提示)

第9条 使用者は、博物館の使用に当たっては、当該許可書を職員に提示しなければならない。

(観覧者の遵守事項)

第10条 観覧者は、次の事項を遵守しなければならない。

- (1) 建物又は備付けの物件を汚損し、若しくはき損し、又はそのおそれのある行為をしないこと。
- (2) 所定の場所以外で喫煙をしないこと。
- (3) 展示資料に手を触れないこと。
- (4) 他の観覧者に迷惑となる行為をしないこと。
- (5) その他職員の指示に従うこと。

(使用者の遵守事項)

第11条 使用者は、次の事項を遵守しなければならない。

- (1) 使用許可を受けた施設以外の施設に立ち入らないこと。
- (2) 使用許可を受けた設備以外は、使用しないこと。
- (3) 許可なく博物館の敷地及び施設内において寄附金の募集及び物品の販売を行わないこと。
- (4) 許可なく広告物等の掲示若しくは配布又は看板、立札等の設置を行わないこと。
- (5) 火災及び盗難の予防措置を講ずること。
- (6) 所定の場所以外で喫煙をしないこと。
- (7) 許可なく酒類を飲用しないこと。

(8) 前各号に掲げる事項のほか、米沢市上杉博物館長(以下「館長」という。)の指示する事項

2 使用者は、その権原に基づき博物館に入館させた者がいるときは、その者に対して前項各号に掲げる事項を遵守させなければならない。

(平13教委規則3・一部改正)

(入館者等の規制)

第12条 館長は、博物館に入館しようとする者が次の各号の一に該当すると認めたときは、その者の入館を禁止することができる。

- (1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれのある者
- (2) 職員の指示に従わない者

2 館長は、博物館に入館している者が第10条、前条第1項第3号及び第4号に規定する事項に違反したとき、その他博物館の管理上支障がある行為をし、又はするおそれがあると認めたときは、その者に退館を命ずることができる。

(職員の立入り)

第13条 教育長は、博物館の管理上必要と認めるときは、使用中の施設内に職員を立ち入らせることができる。

(博物館資料の貸出しの対象者)

第14条 博物館資料の貸出しを受けることができる者は、次の者とする。

- (1) 博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項の博物館及び同法第29条の博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条の公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法(昭和25年法律第118号)第2条第1項の図書館
- (4) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条の学校
- (5) その他教育長が適当と認める者

(博物館資料の貸出しの条件)

第15条 博物館資料の貸出しに要する費用は、当該貸出しを受けた者(以下「借用者」という。)の負担とする。

2 借用者は、当該貸出しを受けた博物館資料を返納するまで、その保管について責任を負わなければ

ならない。

3 借用者は、当該貸出しを受けた博物館資料に事故を認めたときは、直ちにその旨を教育長に通知し、教育長の指示するところにより当該博物館資料を原状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。

4 前3項に定めるもののほか、博物館資料を貸し出す場合の条件は、当該博物館資料の貸出しに係る目的、性格、博物館資料の形状その他を考慮し、その都度教育長の定めるところによる。

(博物館資料の貸出しの手続)

第16条 博物館資料の貸出しを受けようとする者は、米沢市上杉博物館資料借用申請書(様式第7号)を教育長に提出しなければならない。

2 教育長は、前項に規定する申請を許可したときは、米沢市上杉博物館資料貸出許可書(様式第8号)を当該申請者に交付するものとする。

(平13教委規則3・一部改正)

(博物館資料の利用)

第17条 学術上の調査研究等の目的のため館内において博物館資料を利用しようとする者は、米沢市上杉博物館資料特別利用許可申請書(様式第9号)を教育長に提出しなければならない。

2 教育長は、前項に規定する申請書の提出を受け、博物館資料が次に掲げるもの以外のものであって、かつ、利用することが適当であると認めるときは、米沢市上杉博物館資料特別利用許可書(様式第10号)を当該提出をした者に交付し、当該博物館資料の利用を許可するものとする。

(1) 未公開及び未整理のもの

(2) 保存に影響を及ぼすおそれがあると教育長が認めるもの

(3) 寄託された資料であって、寄託者から利用の同意を得ていないもの

(4) その他教育長が不適当と認めたもの

3 前項の規定により博物館資料の利用の許可を受けた者は、次に掲げる方法によりその利用を行うものとする。

(1) 熟覧

(2) 模写

(3) 模造

(4) 撮影

(5) 館内に設置してある複写機による複写及び電子計算機等からの出力による複写(これらの複写に際し必要な実費を負担する場合に限る。)

(6) その他教育長が別に認める方法

(平13教委規則3・追加)

(博物館資料の掲載許可)

第18条 博物館資料を刊行物、映像媒体等により一般に公開しようとする者は、米沢市上杉博物館資料掲載等許可申請書(様式第11号)を教育長に提出しなければならない。

2 教育長は、前項に規定する申請書の提出を受け、適当であると認めたときは、米沢市上杉博物館資料掲載等許可書(様式第12号)を当該提出をした者に交付し、博物館資料の公開を許可するものとする。

(平13教委規則3・追加)

(博物館資料の寄託)

第19条 博物館は、その目的に供するため資料の寄託を受けることができる。

2 博物館に資料を寄託しようとする者は、米沢市上杉博物館資料寄託申請書(様式第13号)を教育長に提出しなければならない。

3 教育長は、前項に規定する申出を承認したときは当該資料と引換えに米沢市上杉博物館資料寄託品

預証(様式第14号)を当該申出者に交付しなければならない。

4 寄託された資料は、他の博物館資料と同一の取扱いをするものとする。

5 博物館は、当該寄託された資料が天災その他の不可抗力によって損失を受けた場合にあっては、その責めを負わない。

6 資料を寄託した者は、当該資料の返還を求めるときは、あらかじめ教育長に連絡し、米沢市上杉博物館資料寄託品預証と引換えにより返還を受けるものとする。

7 資料を寄託した者は、寄託した資料の一時持出しを求めるときは、米沢市上杉博物館寄託資料一時持出願(様式第15号)を教育長に提出し、米沢市上杉博物館寄託資料一時持出同意書(様式第16号)の交付を受け、一時持出しを行うものとする。

(平13教委規則3・旧第17条繰下・一部改正)

(協議会の委員長等)

第20条 条例第16条の米沢市上杉博物館協議会(以下「協議会」という。)に委員長及び副委員長各1名を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。

3 委員長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(平13教委規則3・旧第18条繰下・一部改正)

(協議会の会議)

第21条 委員長は、必要に応じて協議会の会議を招集し、その議長となる。

2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもつて決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(平13教委規則3・旧第19条繰下)

(協議会の運営)

第22条 前条に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、委員長が協議会に諮って定める。

(平13教委規則3・旧第20条繰下)

(その他)

第23条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

(平13教委規則3・旧第21条繰下)

附 則

(施行期日)

1 この規則は、昭和63年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行前に廃止前の米沢市社会教育等施設の管理運営に関する規則(昭和50年教委規則第5号)の相当規定に基づきなされた手続、処分その他の行為は、この規則の規定に基づきなされたものとみなす。

附 則(平成元年3月30日教委規則第4号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成6年4月1日教委規則第5号)

(施行期日)

1 この規則は、平成6年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則による改正前の米沢市博物館の設置及び管理に関する条例施行規則の規定に基づき作成さ

れた様式用の紙は、なお当分の間、使用することができる。

附 則(平成12年6月30日教委規則第12号)抄

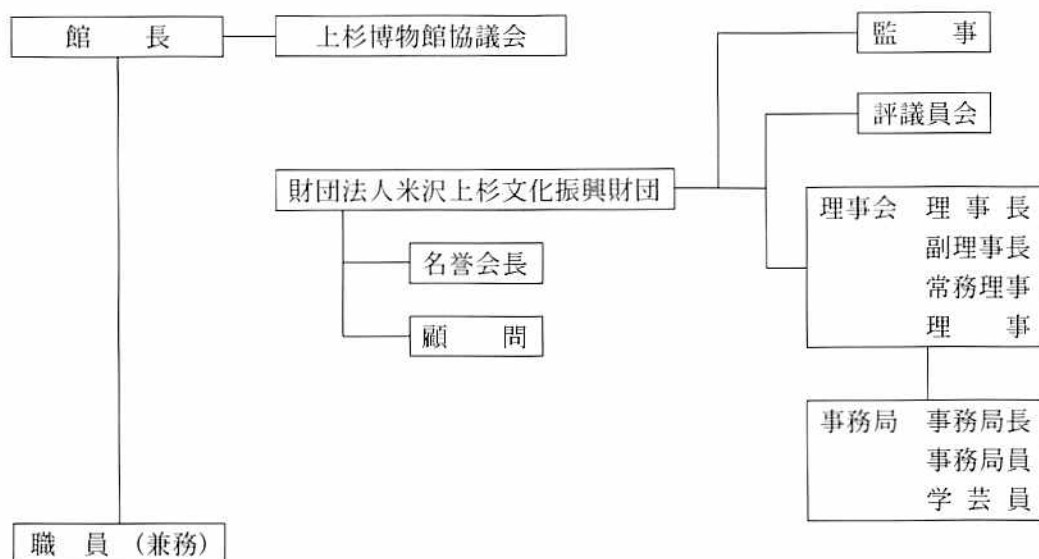
(施行期日)

1 この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成13年3月28日教委規則第3号)

この規則は、平成13年9月29日から施行する。

組 織



1. 米沢市上杉博物館協議会委員（平成12年7月1日～平成14年6月30日）（敬称略）

高橋 英機	小学校校長会代表
多田 正	中学校校長会代表
五十嵐京子	市内高等学校校長会代表
伊田 昭子	社会教育委員
青木美香子	P T A連合会母親委員会委員長
栗林 金郎	財団法人米沢上杉文化振興財団理事長
石栗 正人	米沢市文化財保護委員会委員長
高橋 嘉門	学識経験者
渡部 治雄	学識経験者
横山 昭男	学識経験者
山村 精	学識経験者
大友久太郎	学識経験者
内藤 文徳	学識経験者
上杉 虎雄	学識経験者
佐藤美保子	学識経験者

2. 財団法人 米沢上杉文化振興財団

社団法人上杉博物館が平成2年3月に解散し、かわって財団法人米沢上杉文化振興財団が平成2年3月22日に設立され、米沢市立上杉博物館（平成13年9月29日からは米沢市上杉博物館）の管理運営を財団に委託することとなった。

この財団は、平成元年、上杉家16代当主隆憲氏より、重要文化財「上杉家文書」・重要文化財「紙本金地著色洛中洛外図」（ともに現在は国宝）・県指定文化財「紙本著色厩図」・重要美術品「太刀銘長船長光附打刀拵」の4件が米沢市に寄贈されたことを機として設立されたものであり、地域文化の振興を図るため、歴史・文化に関する調査研究及び美術品の公開展示などの地域社会のより豊かな文化生活に寄与することを目的としている。

役 員（平成14年3月現在）（敬称略）

名誉会長	上杉 邦憲					
顧問	高橋 幸翁	川野 裕章	青木 厚一			
理事長	栗林 金郎					
副理事長	石塚 忠夫	相田 吉助				
常務理事	小関 薫					
理事	上杉 敏子	上杉 裕憲	上杉 隆治	箕 統子	山中 絢子	
	上杉 虎雄	大乘寺 健	相田 實	荒井政二郎	石栗 正人	
	遠藤 英明	小野 榮	加藤 裕子	亀岡 博	北目 二郎	
	黒金 義一	大久保利之	小嶋彌左衛門	佐藤 政一	庄司 淳	
	鈴木 幹司	松田 俊春	三宅 光子			
評議員	安部安左衛門	安部 行雄	荒井 信雄	井形 朝良	岩間 弘一	
	遠藤綺一郎	大友久太郎	沖田 良夫	勝見 吾助	黒田 信介	
	近 厚	桜井 三男	佐藤美保子	塩川 勝彦	嶋貫 雄次	
	須貝 力	鈴木 秀男	高橋 幹夫	長尾 和彦	中條 孝子	
	新野 香逸	新田 妙子	藤崎 直己	松野 良寅	宮坂 直樹	
	山岸 才一	佐藤 茂	佐藤 忠次	鳥海 茂太		
監事	情野 晃一	村岡 孝助	安部 紀子			

事 務 局

事務局長	村野 隆男				
事務局員	角屋由美子	花田 美穂	生熊 郁子	阿部 哲人	清水 緑
	安部 理絵	千田 祥子			

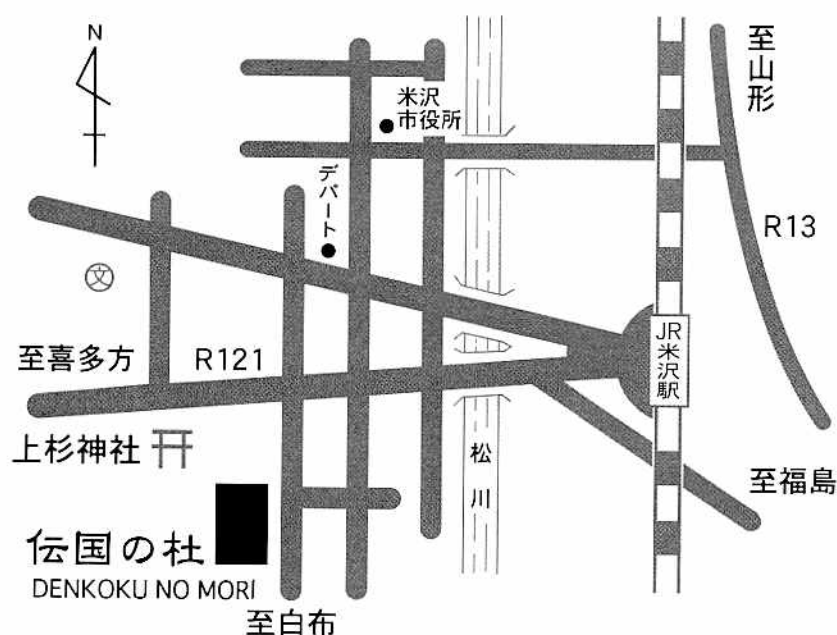
3. 米沢市上杉博物館（平成14年3月現在）

館 長	小関 薫		
副館長（兼務）	村野 隆男	米沢市教育委員会	文化課課長
館 員（兼務）	小林 正夫	米沢市教育委員会	文化課課長補佐
" "	唐澤 一義	米沢市教育委員会	文化課課長補佐
" "	高橋 寿一	米沢市教育委員会	文化課総務主査
" "	山口 弘子	米沢市教育委員会	文化課芸術文化主査
" "	渡邊 紘子	米沢市教育委員会	文化課主査
" "	佐藤 弘子	米沢市教育委員会	文化課主査
" "	菊地 政信	米沢市教育委員会	文化課主任
" "	手塚 孝	米沢市教育委員会	文化課主任
" "	月山 隆弘	米沢市教育委員会	文化課主任
" "	中津 川治	米沢市教育委員会	文化課主任
" "	後藤 利明	米沢市教育委員会	文化課主任
" "	安部 晃市	米沢市教育委員会	文化課主任
" "	我妻 重義	米沢市教育委員会	文化課主任
" "	遠藤 桂子	米沢市教育委員会	文化課主任

利用案内

名 称	米沢市上杉博物館		
所在地	〒992-0052 米沢市丸の内一丁目2番1号		
電 話	0238-26-8001		
F A X	0238-26-2660		
U R L	http://www.denkoku-no-mori.yonezawa.yamagata.jp		
E-mail	welcome@denkoku-no-mori.yonezawa.yamagata.jp		
交 通	山形蔵王IC・福島飯坂ICからR13で50分 JR米沢駅から2km 上杉神社隣接 市内循環バス「上杉神社前」下車		
休館日	毎週月曜日（月曜日が休日の場合はその直後の休日でない日）・年末年始		
入館料	常設展		
	一般	400円（320円）	（ ）内は20名以上
	高校・大学生	200円（140円）	の団体料金
	小・中学生	100円（60円）	
	企画展は展覧会毎に料金を設定		

地 図



米沢市上杉博物館 年報 Vol.14

平成15年3月19日印刷 平成15年3月19日発行

編集：財団法人米沢上杉文化振興財団 発行：米沢市上杉博物館

〒992-0052 山形県米沢市丸の内1-2-1

TEL 0238-26-8001・FAX 0238-26-2660

印刷：株式会社 川島印刷

米沢市上杉博物館

Yonezawa city Uesugi Museum

〒992-0052 山形県米沢市丸の内1-2-1 TEL0238-26-8001